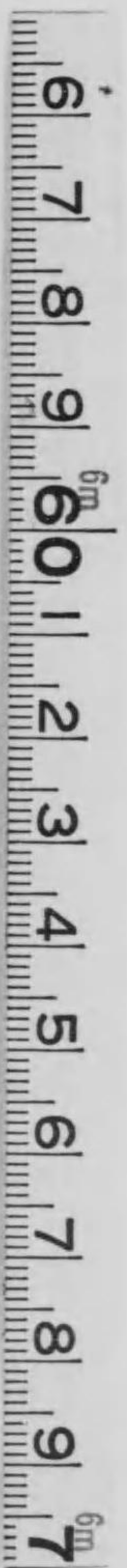


始

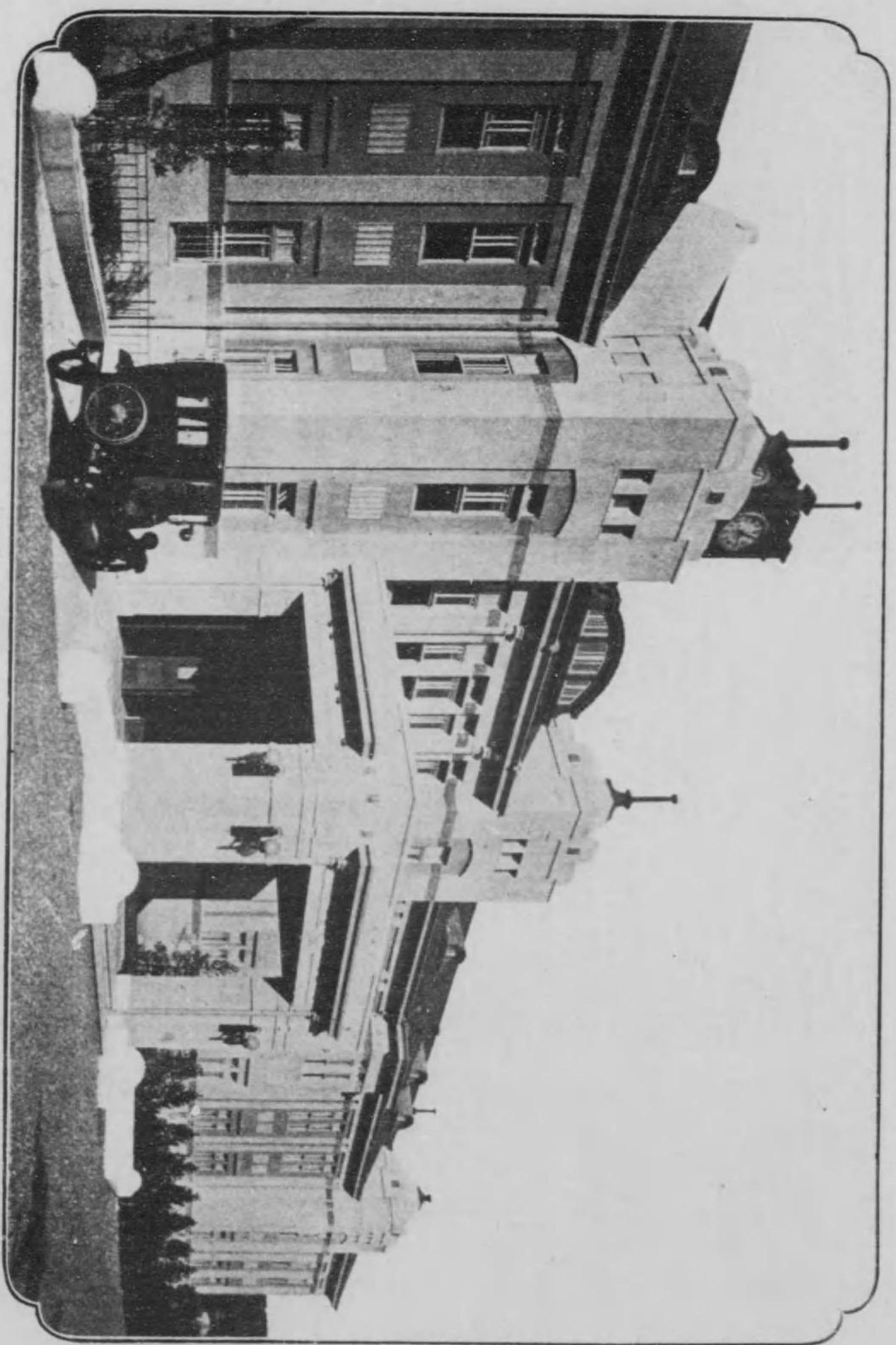


287
20

慶應義塾大學醫學部一覽

287
20

慶應義塾大學醫學部覽



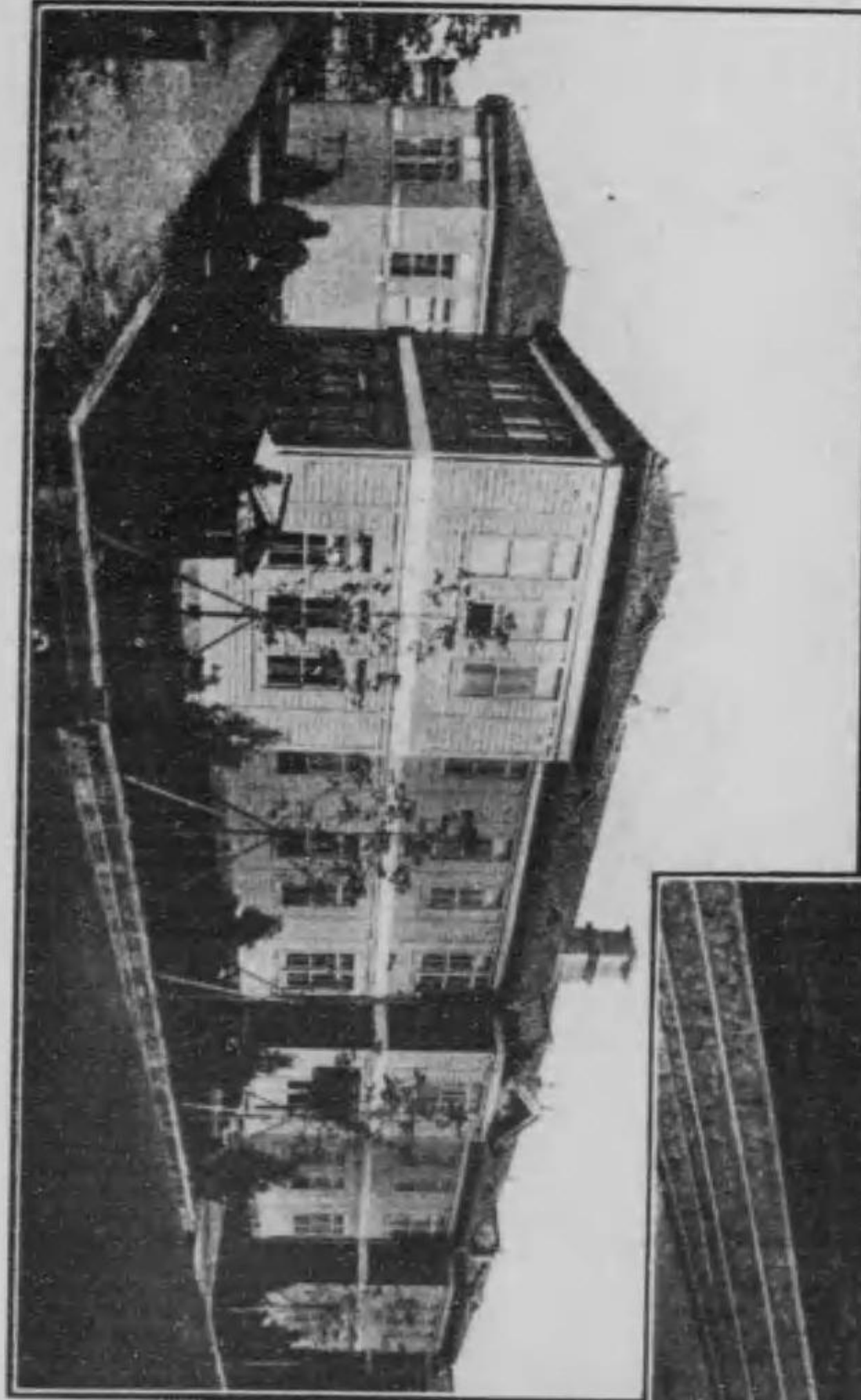
景 前 院 病



福澤社頭

北里醫學部長

林大醫學總長



西校舎



東校舎

慶應義塾大學醫學部一覽目次

- 一、醫學部設立の梗概……………一頁
- 二、醫學部教室及附屬病院の位置……………四
- 三、東西兩校舍……………六
- 四、臨床醫學教室……………一〇
- 五、附屬病院……………一〇
- 六、學事大要……………一〇
- 七、特選研究生……………一〇
- 八、教職員及卒業生、在學生……………一〇
- 九、附屬看護婦養成所……………一〇
- 一〇、附屬產婆養成所……………一〇
- 一一、食養研究所……………三一
- 一二、研究事業費及留學生費の補助及寄附……………三一

木 兵 一〇
 14. 10. 26
 内 交



教授藤田 教授木北小 教授部岡 教授田前 教授木茂 教授山下 教授林小 教授泉小 教授川津 教授月室 列後
 教授岡草 教授添川 教授野西 教授泰 事主島北 教授沼菅 教授嶋岡 教授口田 列前

慶應義塾大學醫學部一覽

一、醫學部設立の梗概

慶應義塾は嘗て明治六年に醫學所を創立し、故松山棟庵氏を所長として醫學教育に著手せしが、明治十三年都合上廢校せり。明治二十三年大學部を設立し、理財・法律・文學の各科を置き、明治三十年政治科を加設せし以來、更に醫科、理工科等を併置し、完全なる綜合大學たらしめんことの希望にて種々調査計畫する所ありしも、其の設立には巨額の資金と適當なる人材とを要するを以て、暫く機會の到るを待ちしが、時運の進歩は其の發展を促すと共に、故福澤先生と因縁深き北里博士の進んで設立の衝に當らんことを諾せらるるに及んで機運竟に熟し、愈々醫學科及化學科を設置するの議決し、大正五年七月六日左の設立趣意書を發表し、資金募集に著手せり。

醫學科化學科設立趣意書

二

慶應義塾は曩に大學部を置き我國私立大學の嚆矢をなせしより茲に二十七年、其間理財・法律・文學・政治の諸科に於て年々幾多の學士を出し社會を裨益せること尠からずと雖義塾は是等無形の學問のみを以て甘んずるものにあらず、更に進んで有形科學の發達を謀るは義塾本來の希望なり、福澤先生が終始一貫實學の必要を唱へて已まざりし所以も亦此に在り、即ち醫理・工等諸學科増設の第一著手として先づ茲に醫學、化學の二科を創設し、以て我學問界に貢獻する所あらんとす。元來義塾と醫學とは深き因縁を有し、明治六年より同十三年に至るまで義塾内に醫學所を置き多數の醫家を養成せしことあり、又今回は福澤先生と縁故淺からざる北里博士等の來りて其局に當らんとするあり、義塾は此機會に於て廣く大方の援助を求め以て其理想の一部を實現せんと欲す。而して化學の一科に至りては醫學の研究と密接の關係を有するを以て同時に其設立を圖りて假りに之を醫科に附屬せしめ、藥學其他の研究に便にし、他日理工科を開設するの根基たらしめんとす。茲に設立の趣旨と義塾將來の希望とを述べて偏に有

志諸君の贊助を仰ぐ。

大正五年八月

慶應義塾

右の趣意書を發表すると同時に著手されたる資金募集の成績は極めて良好にして、同十月下旬既に豫定額の百萬圓以上に達せしを以て、十二月廿七日醫學科設立認可を得、大正六年三月豫科一年生を募集し、同年四月十六日開校するに至れり。是れより先き義塾大學部に醫學科増設の儀天聽に達し、同六年一月十日福澤先生生誕記念日に於て福澤社頭を召され、左の御沙汰書を賜はりたり。

慶應義塾

今般事業擴張ノ計畫有之趣被聞食以思召御補助トシテ金參萬圓下賜候事
大正六年一月十日

宮内省

醫學部建設に要する資金募集の成績は上述の如く、夙に豫定額に達せしも、時恰も財界の變動に因る物價騰貴の影響を受けて最初の豫算を以て充分なる能はず、勢ひ募集金額の増額を必要とせしが大方諸賢の同情を以て是れ亦無事目的を達

三

して寄附金累計参百七萬圓に上り、遂に醫學部の完成を見、大正九年十一月六日を以て校舎落成及附屬病院開院の式を擧ぐるに至れり。



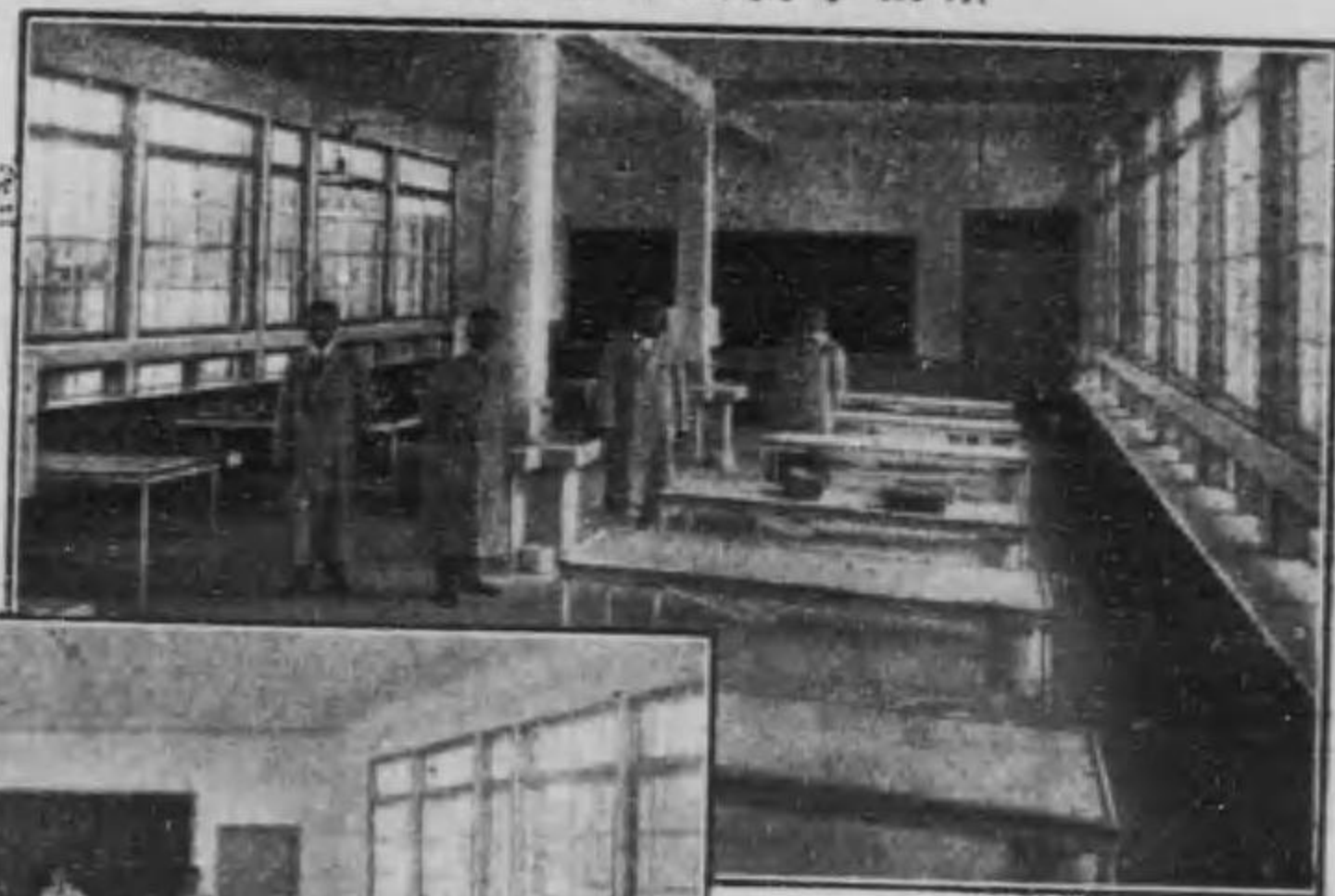
西校舎講堂

豫科の學生は三田の慶應義塾にて教育せられ、本科學生は四谷區西信濃町慶應義塾大學醫學部校舎及附屬病院にて教育を受く。醫學部校舎は大正八年本科開校に先だちて一部完成し、逐次増築の工程を進め、大正九年末には東西の基礎醫學校舎及附屬病院等悉く完成し、學生の教養實習に毫も遺憾なきに至れり。

二、醫學部教室及附屬病院の位置

慶應義塾大學醫學部の所在地は四谷區西信濃町にして一部同大番町に互り省線信濃

解剖學教室解剖室



同組縫製室

町驛に接近し、病院正門前には市内電車の信濃町停留場あり、敷地坪數二萬一千三百餘坪あり、其の南側は鐵道線路を隔て、直に明治神宮外苑に臨み、土地高濶、西空遙に富岳を指顧すべし、敷地は南北に縦貫する道路に依りて自ら東西兩部に分たる。醫學部校舎及病院は東部の約一萬六千坪の地域に建設せられ、西部五千餘坪は將來化學教室其他増設の用地に充てらる。東部の地域は校舎病棟等建て連ねられあるが、此の地域は更に南北に兩分する構内通路に依りて貫通せらる。其信濃町通に

接著する點に醫學部正門を置く、正門を入れれば右側は基礎醫學校舍にして東及西の兩校舍に分たる、左側は主として附屬病院にして學生控所、看護婦寄宿舎、汽罐室等を並置す、建築物の延坪數約九千八百餘坪なり。

三、東西兩校舍

西校舍は醫學部構内の西北隅を占め、北より解剖生理藥物醫化學の四教室を連繋し、其間に二個の講堂を配置す、延坪數千二百八十八坪四合七勺五才あり。

解剖學教室 屍體收藏室、解剖實習室、組織實習室、標本製作室等の設備あり、追ては標本室を築造すべき豫定なり、主任教授以下解剖學、組織學、比較解剖學、胎生學等の各方面の研究に従事しつゝあり。

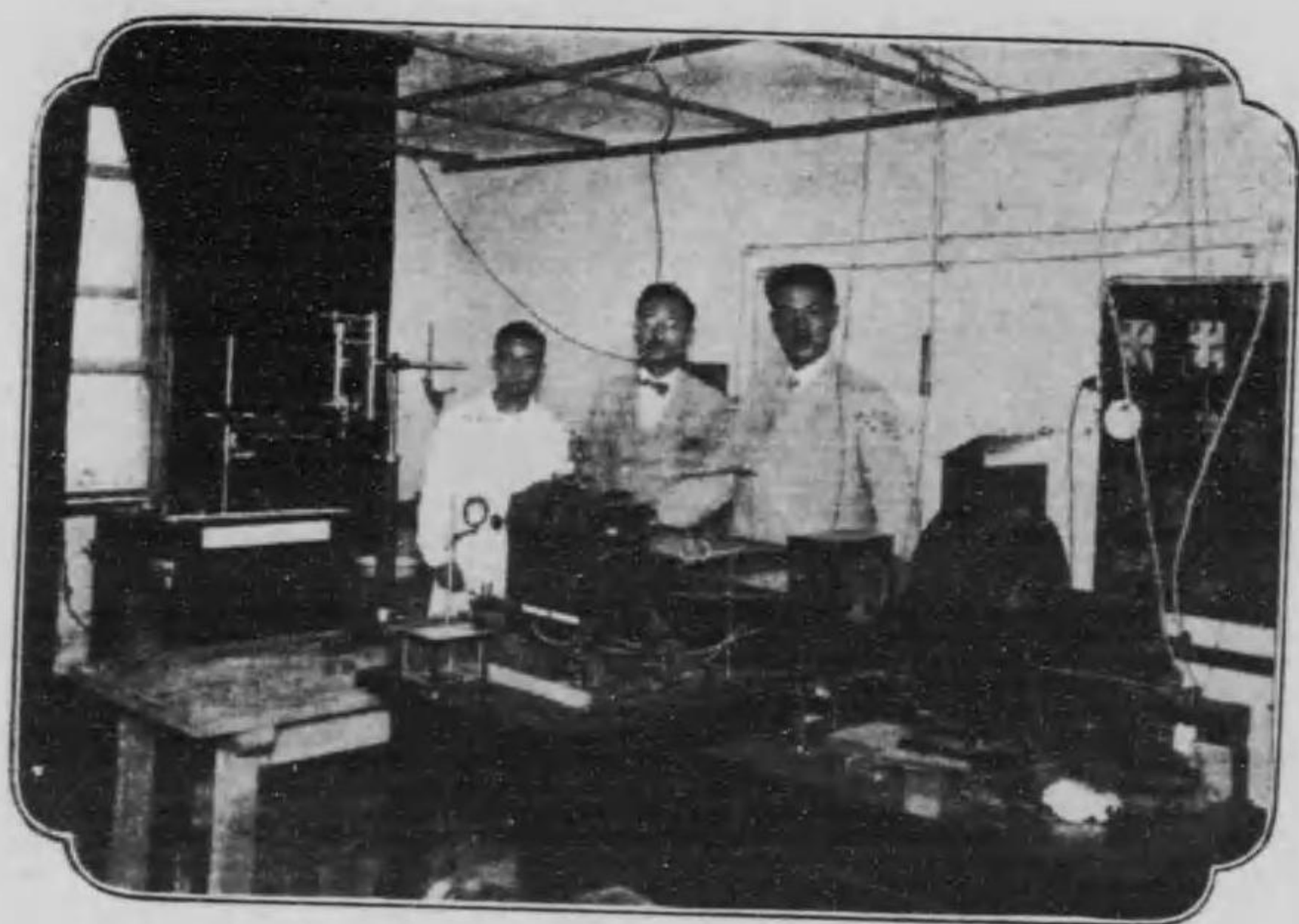
生理學教室 専ら筋肉神經生理の研究を行はんがために主として其方面に關する實驗の設備をなせり、曩に白米病の神經痲痺が水素イオンの吸著に因て起ることの業績を發表し、又痲痺神經の不減衰傳導學說を主唱し、今や生理學界の一大問題となれり、尙進んで其研究を續行しつゝあり。

藥物學教室 研究室、實習室、動物室等の設備あり、藥品の分析、合成等の外、種々の生物學的、藥物學的研究を行ふ、人參の研究、阿片、其他痲醉藥の作用、其除害法等に就て研究せり。

醫化學教室 凡ての生理作用の化學的研究を目的とし、各種の研究室あり。

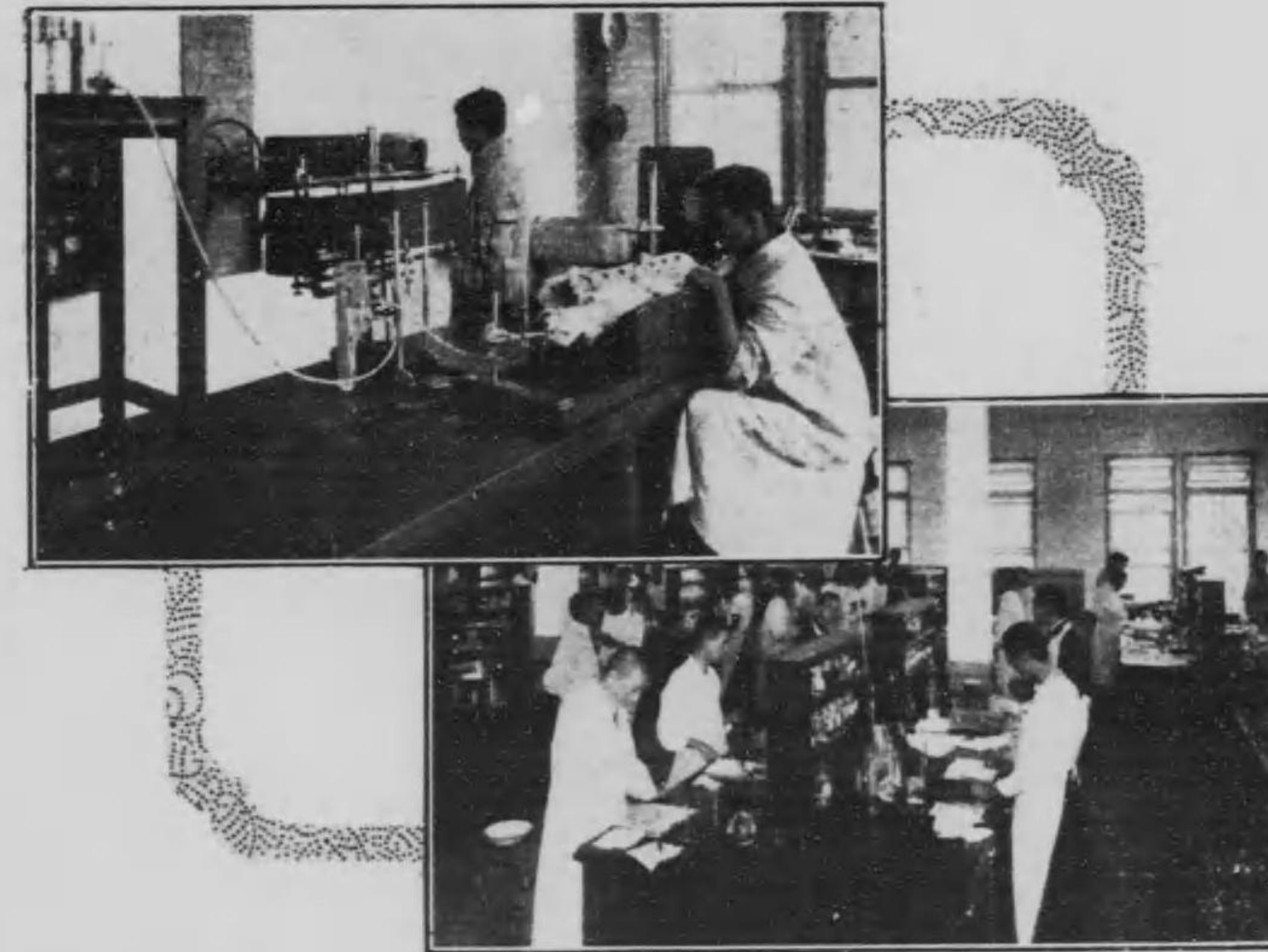
以上各教室何れも二階建にして其建築互に連續し、共同の圖書室、食堂を有す。

東校舍は延坪數七百十六坪九合五勺一才を有し、全部久原房之助氏の寄附によりて成れるものにして、病理細菌學教室と稱す、中央の教室は二階建にして階下には多數の研究室、標本室、孵卵器室、培養基製造室あり、階上には同じく研究室の外、學生實習室、圖書室、食堂、應接室等あり、教室の北面に動物小屋、病理解



生理學教室實習室

室驗實室教學物藥



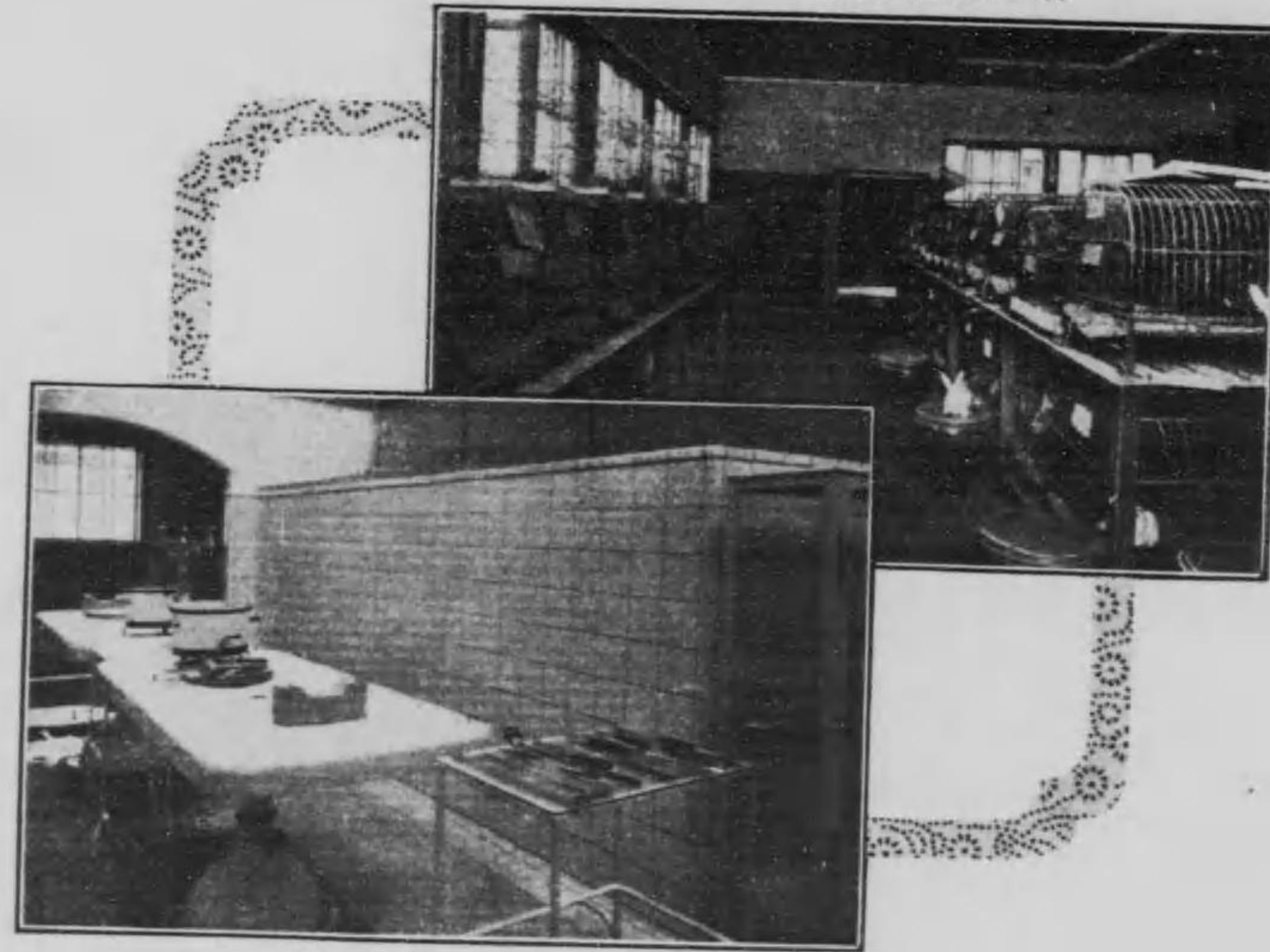
室習實室教學化醫

八

剖室大講堂の三個の建築あり、何れも廊下を以て連結す、動物小屋は西端にあり、猿・山羊・家兎等の實驗用動物を飼育す、病理解剖室は中位にあつて極めて清淨なる結構を呈し、講堂は東端にありて大約五百の座席あり、正門に近く各種の會合に便なり、猶動物小屋と解剖室との間の空地には標本室を建つる豫定なり。

東西兩校舎中間の空地は將來本醫學部中央圖書館の建築豫定地なり、其北隅に一小屋あり電氣機關に依りて自働的に井水を汲み上げ、地中のタンクに貯へて病院其他各所に送り雜用水に供す。

室物動室教學菌細理病



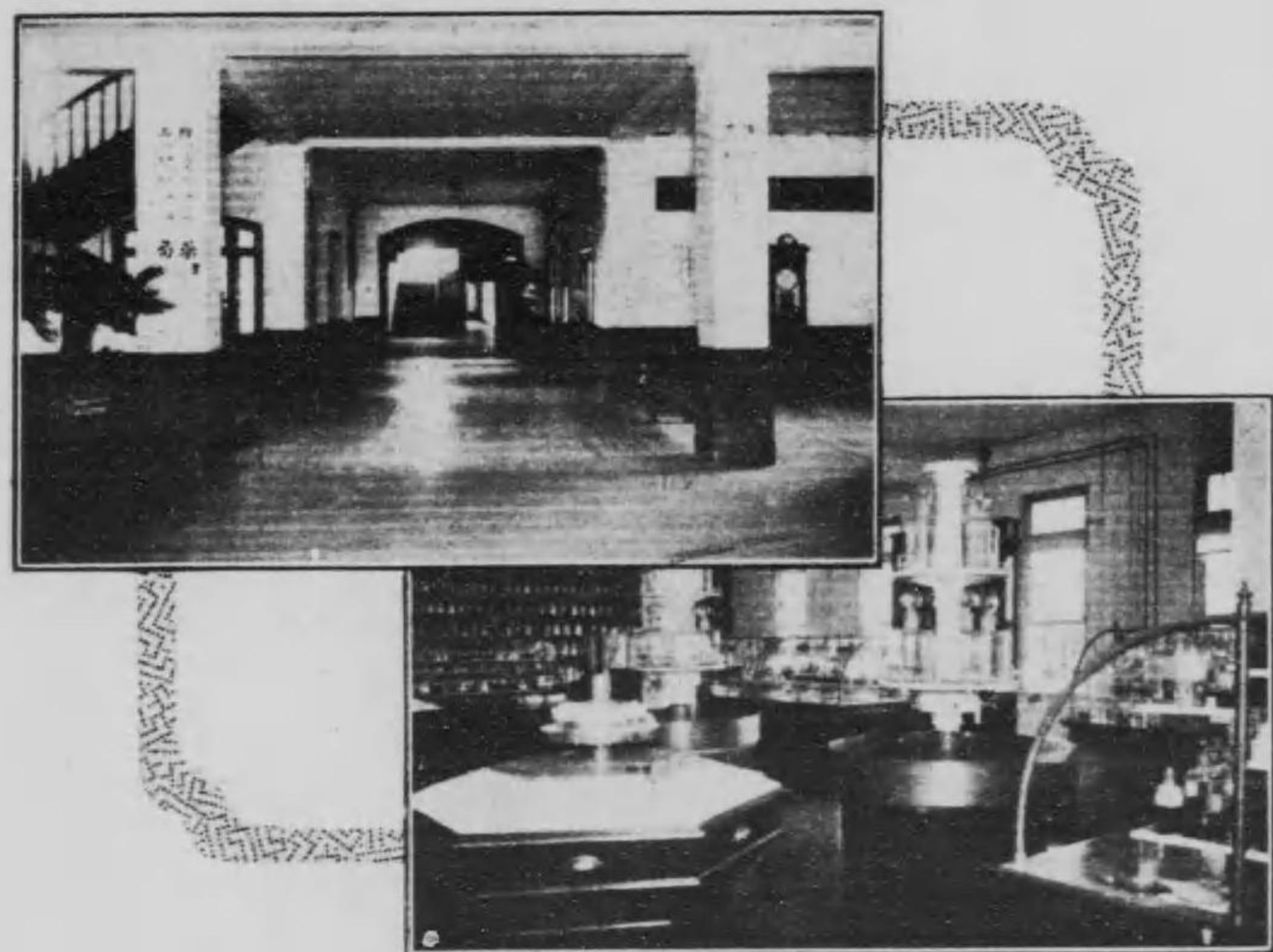
室剖解同

九

臨床醫學の各教室は何れも病院内にありて、各科診察室に隣して各科の教授室及醫局を併置し、病院内に講堂あり、以て通常の講義及臨床講義を行ふ、故に病院は診察所と、病室と、醫局と、教室と、醫局の研究室と、學生の實習所とを兼ねたるものなり、學生は各種の講義を聴く外、外來診察所及病室に於て臨床上の實習を修得す。

四、臨床醫學教室

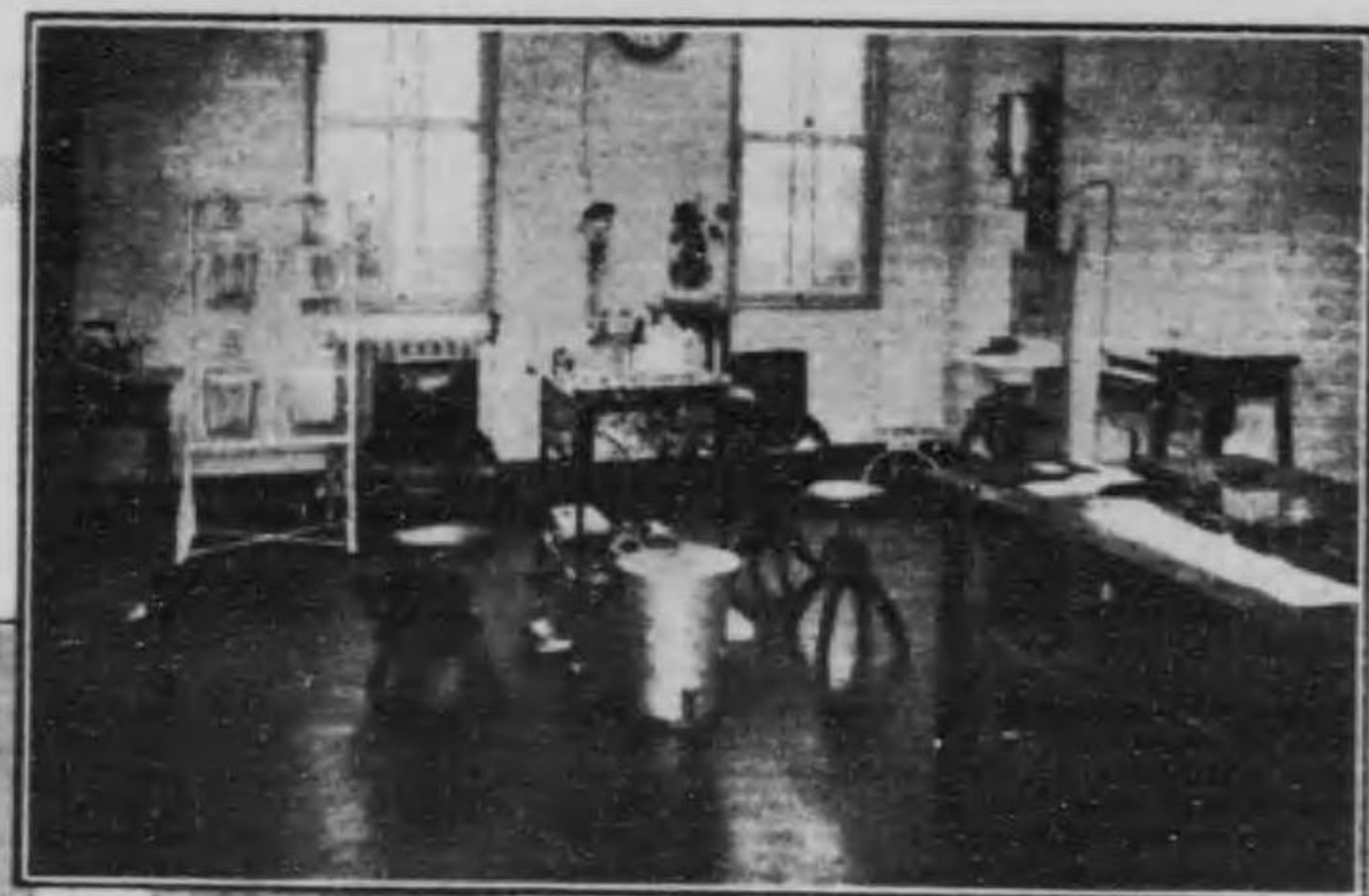
關玄部察診院病



局 藥 同

醫學部敷地の東南隅に病院正門あり、門を入りて直進すれば病室玄關に至る。正門と病室玄關との中程右手に外來患者の出入用大玄關あり。大玄關を上げば受附及物品預所あり。左に藥局あり、調劑投藥の設備能く整ひたり。右に曲れば内科診察室にして患者待合室及多數の診察室・試験室等あり。内科診察室の階上には圖書室、院長室、學部長室等あり。廊下を隔てて内科醫局あり。藥局の上には耳鼻咽喉科診察室

室察診科内院病

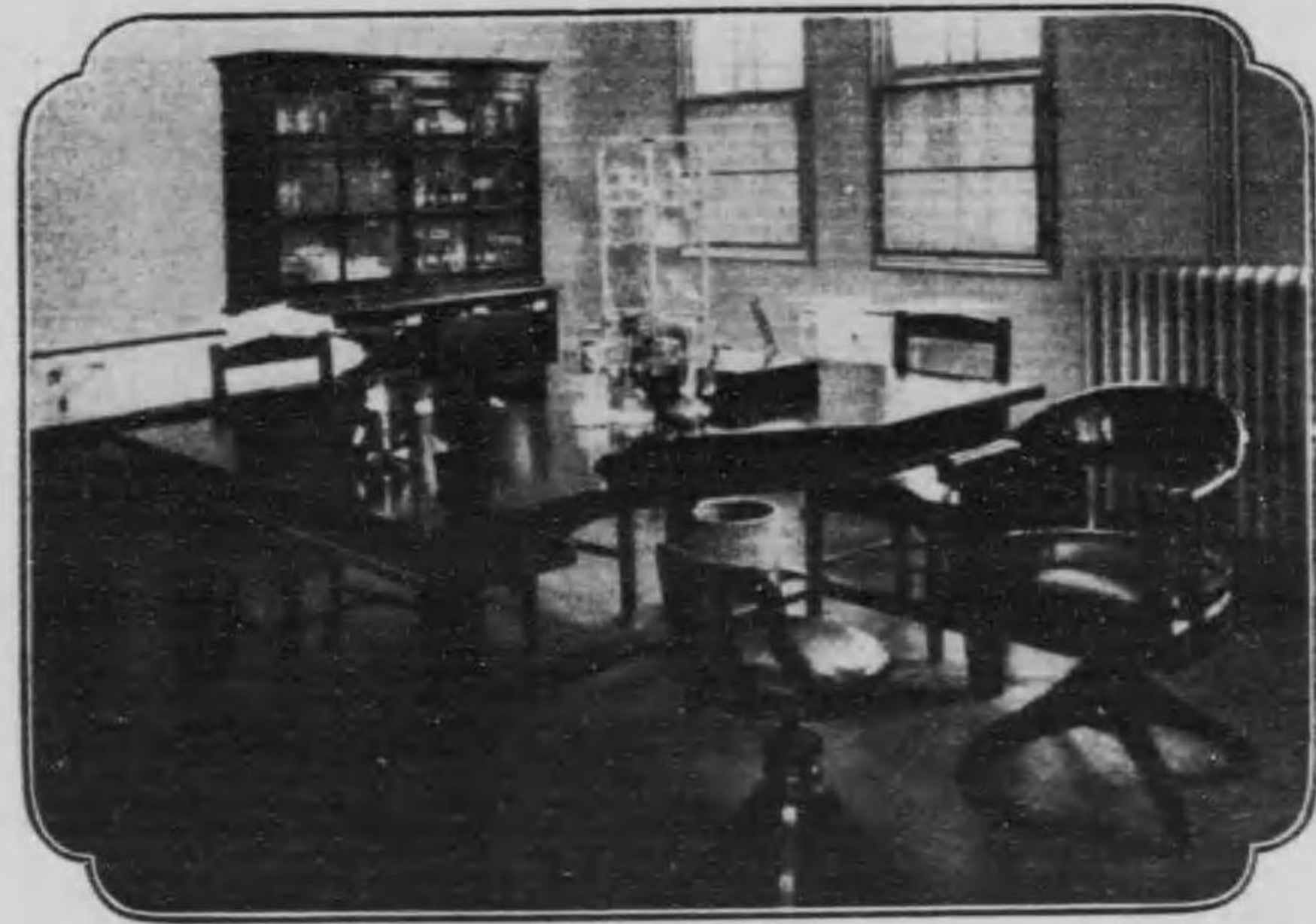


室察診科喉咽鼻耳同

あり、又玄關の上には平面講堂あり、以上は病院正面第一列の建築なり。大玄關より直に奥に進めば第二番目の廊下の四辻に出づ、右側の南面は小兒科診察室、其北面は産婦人科診察室なり。左側の南面は外科診察室、北面は整形接骨科診察室なり。此の四辻を二階に上げれば同じく左右前後に神経科診察室、皮膚科診察室、眼科診察室、齒科診察室ありて夫々の醫局をも併置す。再び降りて以前の四辻を前進すれば第三の廊下辻ありて左手に理學的診察室あり、X光線ラジウムによる治療及診

五、附屬病院

斷「アテルミ」其他各種電波の治療應用各種の熱氣浴・水浴・光浴・電浴等の設備あり、最近には「ネオインテンデーフ」のX光線装置を備へ深部治療を行へり、又X光線

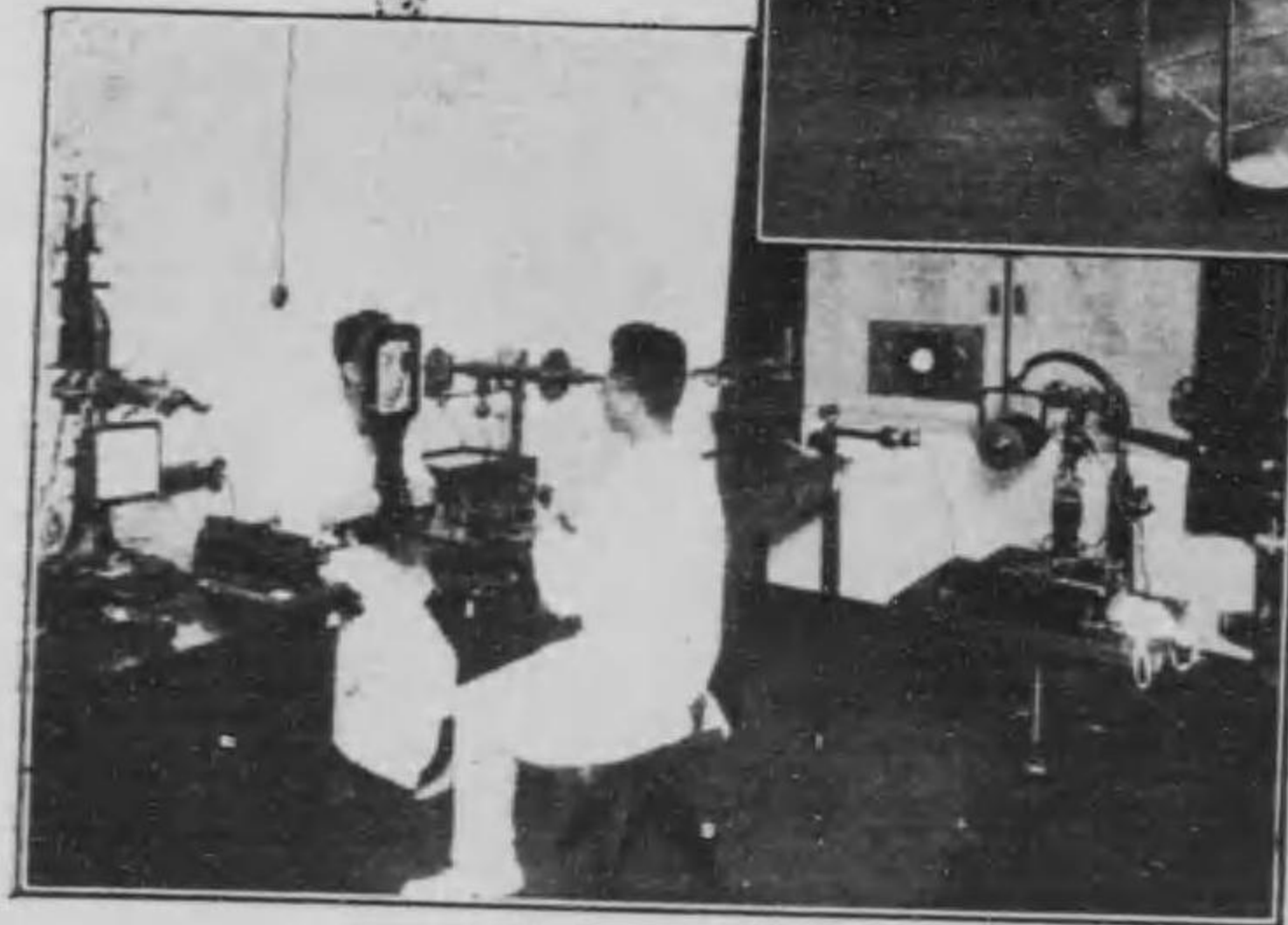


室察診科兒小院病

に關する各種の測定器械を備へ研究に従事せり、理學的診察室に連りて講堂あり、講堂の家根に接して日光療養室を設く、理學的診察室の階上には食堂及宿直室を設く、理學的診察室に對して右手に手術室あり、一部は産室に一部は外科手術に用ふ、外科手術室は大小あり、且つ化膿性のものと非化膿性のものとに區別し又採光、消毒等に充分の注意を拂へり、

此等三列の諸建築の東端を連繋する建物に研究室を設く、階上には組織生理化學研究室(第一研究室)あり、階下に細菌學的及組織學

室術手科膚皮院病



室察診科眼同

的研究室(第二研究室)及附屬動物室あり、向目下信濃町道路に面し病院正門の横に食養研究所と共に各科研究室を建設中なり、三階の鐵筋コンクリート「建」にして化學的病理學的及細菌學的の研究室其他動物室等あり、

以上の建築物の西端を連ねつゝ南北に縦貫する大廊下あり、其南端は病棟玄關にして病院正門に對せり、北端は基礎醫學校舍前の道路に開けり、大廊下の西方に連りつゝ「い」ろ「は」に「ほ」ち「號」の病棟南より北に

並びと號病棟のみは大廊下の東側にありて理學的診療室と看護婦寄宿舎の附屬廊下との中間に挿まる、又「ち號病棟北側の空地には隔離病室あり、以上の病棟には

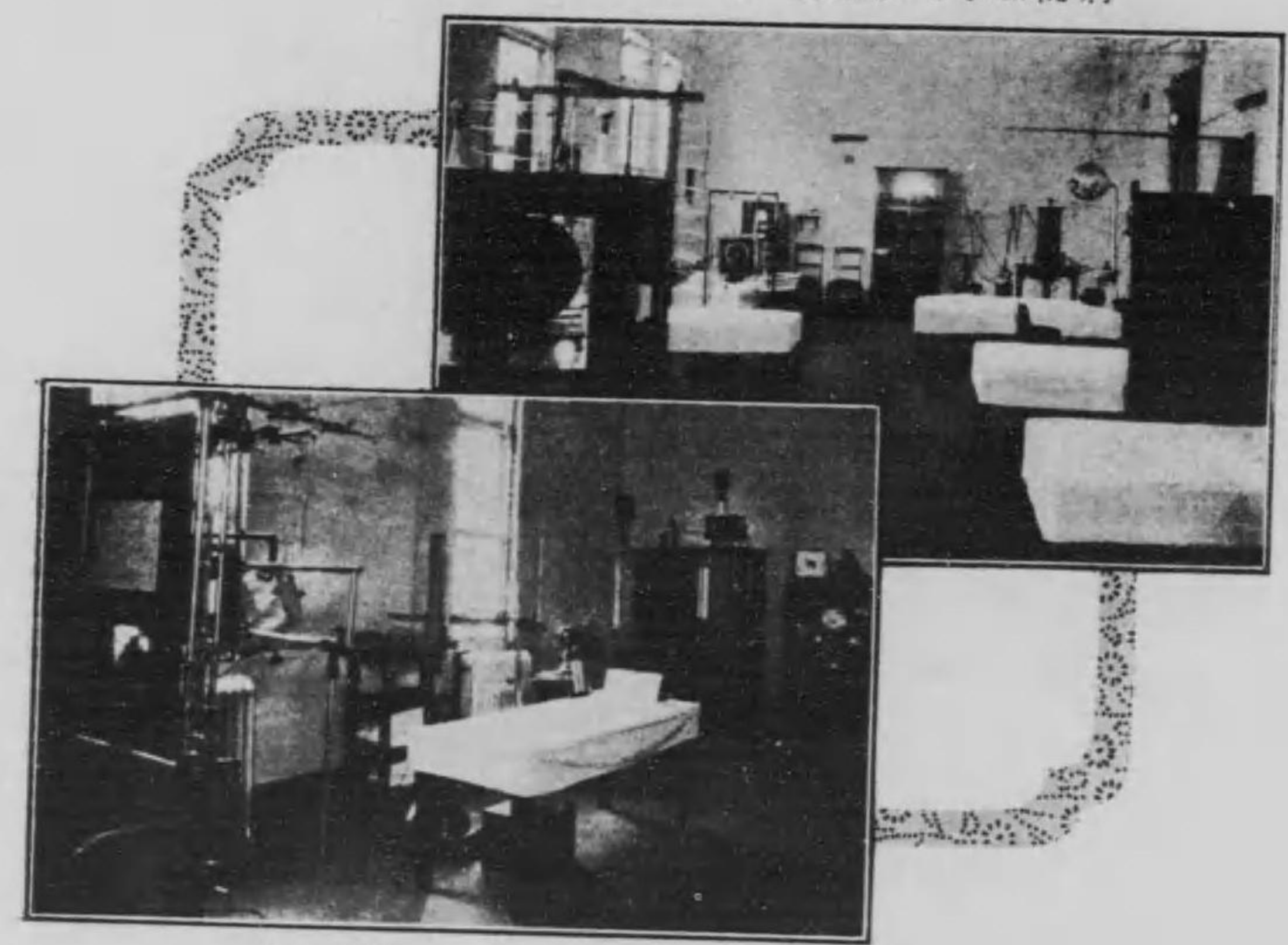


室察診科商院病

特等病室二、一等病室四十五、二等病室百六十七、三等病室六十一ありて約五百人の患者を收容するを得べし、就中「い號病棟は神田露藏氏」ち號病棟は野村實氏の寄附によりて築造せるものなり。

病棟は何れも二階建にして患者の階上運搬の爲に昇降機を備ふ、病棟と診察所との境界には防火壁を置きて防火の用意となせり、病院全部の暖房は低壓蒸汽装置に依る、便所は總て水槽式にして室内の床には練革床を使用せり、病室には洋風と和風とありて其の便宜に應ぜしむ、又「い號病棟の三階には喫

(一 共) 室療診的學理院病

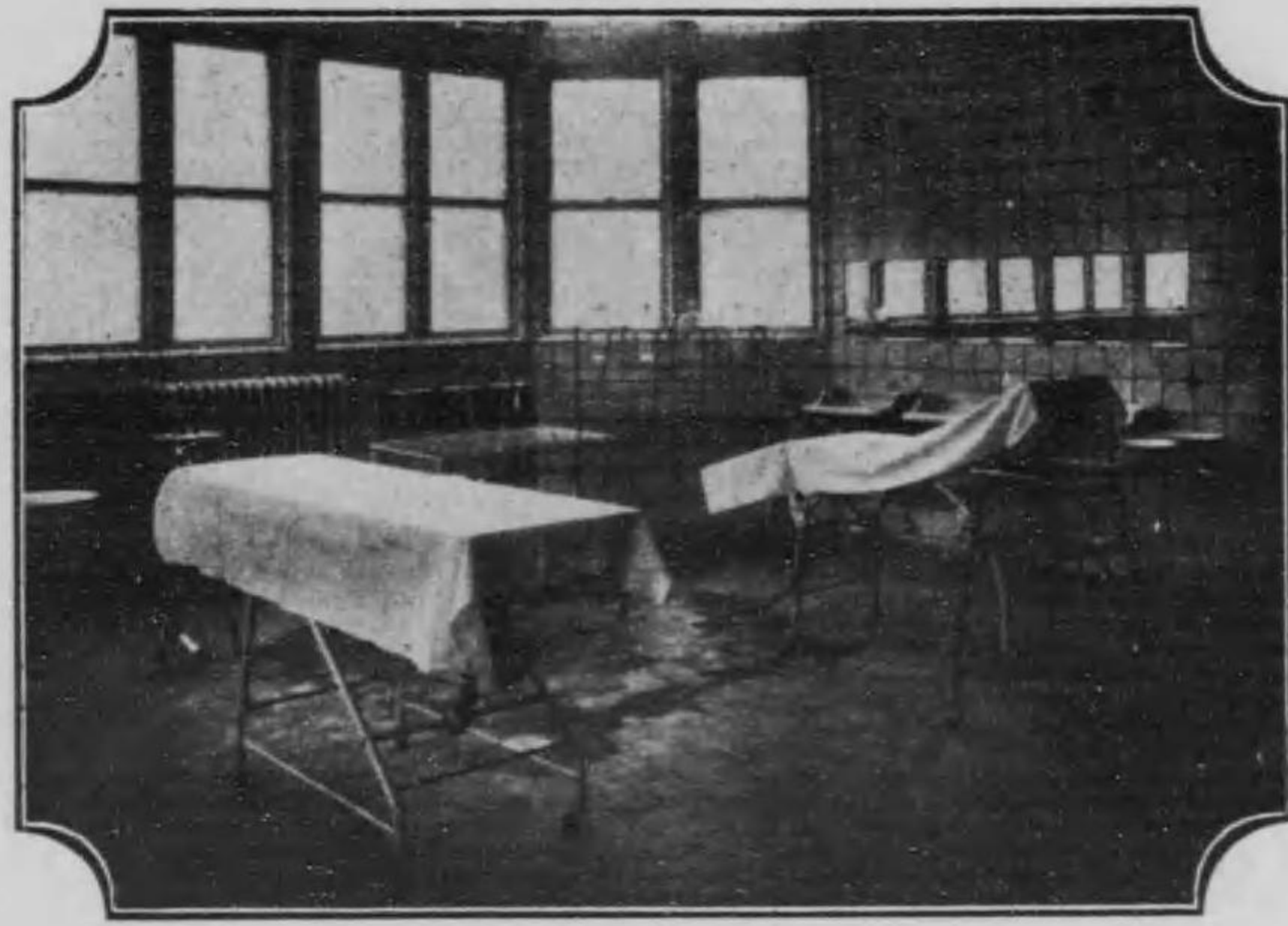


(二 共) 同

茶店、屋上庭園あり、其他の各所には談話休養の室あり、理髮店、賣店等の設もありて病院生活の便宜を計りたり。

本病院の特色は設備の斬新なることと各科の集中制度なり、診察所より云ふも、各科同一所にあり、よく連絡を保てるを以て患者は必要に應じて容易に甲科より乙科の診察室に行き、完全なる診察を受くることを得べし、入院せる患者にありても、必要に應じて他科の醫員直に共力診療の勞を取るを以て完全なる治療を誤ることなし、之を醫學の研

究の上より見るも、又學生の教養訓練の點より考ふるも、各専門科の集中して圓滑なる連絡を有することは至大の便宜と云ふを得べし。



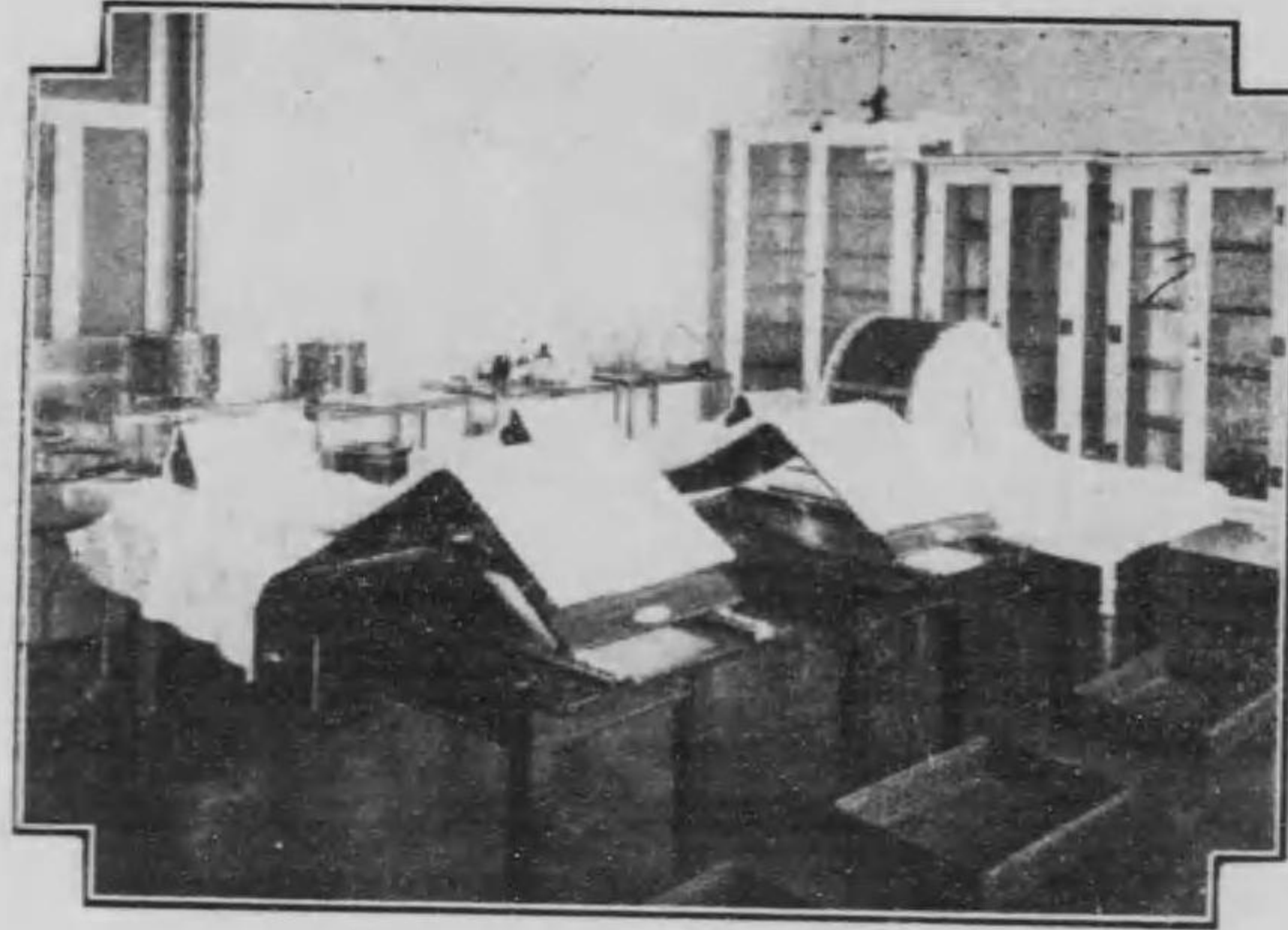
病院外科小手術室

本病院の設備は最も進歩せる式を採用し、診断治療上に必要な検査法、器具の類を始め、手術を要する病症に對しては適切な装置の設けあり、例へば眼科診察室に於ては細心なる光學的設備を行ひ、明暗を自由に調節するの設備をなし、或は齒科診療室の手術臺には最も優良なるものを採用し、或は整形接骨科には、ザンデル氏の矯正器の設備をなし、或は理學的診療科には、深部治療用X光線装置其他各種の設備をなし、各科と連絡して完全なる診断及び治療を行ふが如し。

附屬病院の建坪數左の如し。

病院 延坪三、七四八坪四三三

(い號ろ號は號に號ほ號と號ち號及隔離の各病棟並に附屬建物を含む)



病院婦人科處置室

診察部 延坪二、〇三四坪九〇二

(内科・外科・整形・接骨科・小兒科・産婦人科・眼科・皮膚泌尿器科・耳鼻科・神経科・理學的診療科・齒科の各診察室・醫局・藥局・手術室・産室・講堂・研究室並に附屬建物を含む)

病院附屬の建築として前記炊事場及食堂に續き汽罐室・配電及蓄電室・洗濯所・看護婦寄宿舎あり(以上延坪一、四六四坪六八〇)汽罐は病院全部の暖房、熱湯、蒸氣の供給を司るものにて三個の高壓汽罐と四個の暖房用低壓汽罐とを備へ所屬煙突は地上百十呎の高さあり。

看護婦及産婆寄宿舎は二階建にして延坪七百八十七坪五合なり。常に約四百人を收容せり。作法室圖書室娛樂室を備ふ。東寮西寮に分ち廊下を以て病棟に連絡す。

事務室は學校正門内通路の南にあり、目下假建築なり。

學生控室は事務室に並びありて是亦假建築なり。

六、學事大要

本醫學部の學生は豫科を終へたる者を收容す毎學年の定員は百人とす。豫科は三年にして其課程は高等學校と略同じと雖將來醫學に必要な科目に重きを置き教材を取捨しあるを以て學生の爲めに便なる點多しとす。豫科の卒業生にして定員に不足あるとき



病 院 研 究 室

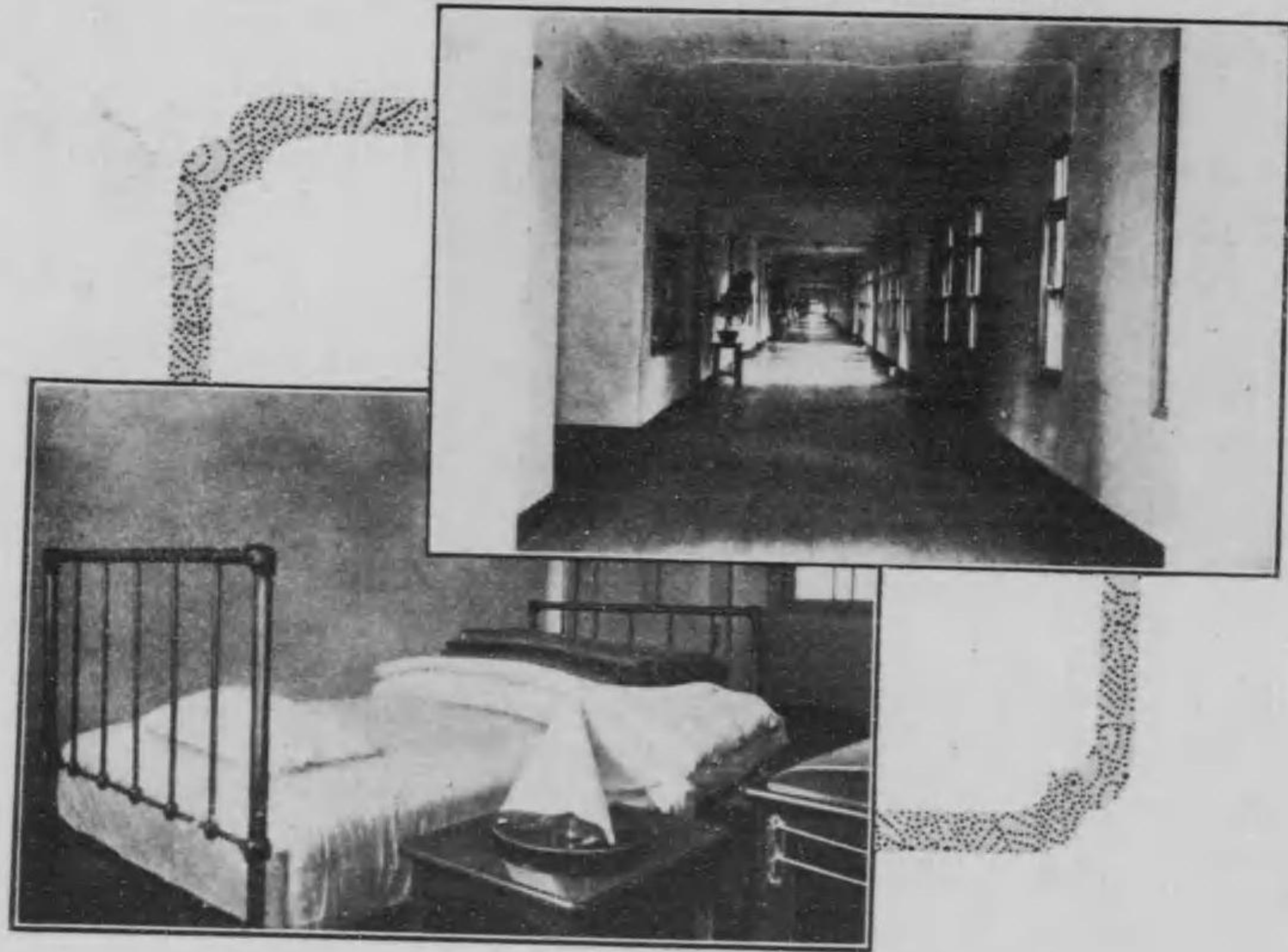
は他の高等學校卒業者を入學せしむることあり。學科課程は左表の如し。

社會衛生統計等新しき方面の科目に時間を割き又特別講演として知名の學者に講演を依頼すること等を特記すべきこととす。

學 課 表

科 目	第一學年			第二學年			第三學年			第四學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
解剖學	二	一〇	二									
組織學	(一)	(二)	(二)									
比較解剖學及胎生學	(六)											
局所理解學												
生理學	六	六	二									
習學				(三)								

病院棟大廊下



同病室

試験は毎學年終了せし學科に就き學年試験を行ひ又卒業試験として第四學年終に於て行ひ之を二部に分ち第一部は解剖學・生理學・醫化學・病理學・藥學・細菌學の六科とし第二部は內科學・外科學・產科婦人科學・眼科學・衛生學・法醫學・精神醫學の内一科(抽籤によりて之を定む)小兒科學・皮膚泌尿科學・耳鼻咽喉科學の内一科目(抽籤によりて之を定む)とし其外尙隨意の科目につき卒業論文を作らしむ。

本大學に學位の申請をなし醫學

備考(一)ヲ附シタル時間ハ學生ヲ數組ニ分テ實習セシムルモノニシテ第四學年ノ第三學期ニ於テハ臨床各科ニ就キ實習ヲナサシム

計	義	講	床	臨	者	患	來	外	裁	社	統計學	醫事ニ關スル法律	法醫學	理學的診療科	商科學及臨床講義
(六)	(六)	(六)	(六)	(六)	(六)	(六)	(六)	(六)	(六)	(六)	(六)	(六)	(六)	(六)	(六)
(二八)	(二八)	(二八)	(二八)	(二八)	(二八)	(二八)	(二八)	(二八)	(二八)	(二八)	(二八)	(二八)	(二八)	(二八)	(二八)
(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)
(三〇)	(三〇)	(三〇)	(三〇)	(三〇)	(三〇)	(三〇)	(三〇)	(三〇)	(三〇)	(三〇)	(三〇)	(三〇)	(三〇)	(三〇)	(三〇)
(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)
(九)	(九)	(九)	(九)	(九)	(九)	(九)	(九)	(九)	(九)	(九)	(九)	(九)	(九)	(九)	(九)
(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)	(二四)
(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)
(二八)	(二八)	(二八)	(二八)	(二八)	(二八)	(二八)	(二八)	(二八)	(二八)	(二八)	(二八)	(二八)	(二八)	(二八)	(二八)
(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)
(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)	(二九)
(二五)	(二五)	(二五)	(二五)	(二五)	(二五)	(二五)	(二五)	(二五)	(二五)	(二五)	(二五)	(二五)	(二五)	(二五)	(二五)
(二二)	(二二)	(二二)	(二二)	(二二)	(二二)	(二二)	(二二)	(二二)	(二二)	(二二)	(二二)	(二二)	(二二)	(二二)	(二二)
(六)	(六)	(六)	(六)	(六)	(六)	(六)	(六)	(六)	(六)	(六)	(六)	(六)	(六)	(六)	(六)
(七)	(七)	(七)	(七)	(七)	(七)	(七)	(七)	(七)	(七)	(七)	(七)	(七)	(七)	(七)	(七)

部教授會の審査を経て文部省の認可を得て醫學博士の學位を得たるもの左の如し。

大正十一年	八人	大正十三年	一九人
大正十二年	一三人	大正十四年	二二人

七、特選研究生

大正十三年七月醫學部特選研究生規程を設け、學力優秀品行方正にして永く學術の攻究に従事せんとする者より之を選定し、月額五十圓以上を支給することとなり、醫學部本科卒業生中教授會の議を経て部長の推薦に依り特選研究生を命ぜられたるもの左の如し。

科別	職名	氏名	科別	職名	氏名
産婦人科	助手	齋藤常之進	解剖學科	助教授	江崎四郎

生理學科	講師	中澤恒三郎	細菌學科	助手	千種峯藏
化學科	助手	石澤豊松	病理學科	助手	寺田秀男

之に要する費用は財團法人森村・豊明會・熊本利平・門野幾之進・和田直兵衛・望月軍四郎諸氏の好意に依り其の寄附金を以て支辨す。

八、教職員及卒業生、在學生

部長	醫學博士 男爵	北里柴三郎	(解剖學)	醫學博士	望月周三郎
主事	醫學博士	北島多一	(生理學)	醫學博士	加藤元一
病院長	醫學博士 男爵	北里柴三郎	(藥物學)	醫學博士	阿部勝馬
病院副院長	醫學博士	北島多一	(醫化學)	醫學博士	照内豊
教授	(解剖學)	醫學博士	(病理學)	醫學博士	川上漸
	(解剖學)	醫學博士	(同)	醫學博士	草間滋
	(解剖學)	醫學博士	(細菌學)	醫學博士	秦佐八郎

(細菌學) 醫學博士 小林 六造
 (寄生蟲病學) 醫學博士 小泉 丹
 (法醫學) 醫學博士 田口 勝太
 (內科學) 醫學博士 西野 忠次郎
 (外科學) 醫學博士 茂木 藏之助
 (整形接骨科學) 醫學博士 前田 友助
 (小兒科學) 醫學博士 唐澤 光徳
 (産婦人科學) 醫學博士 川添 正道
 (眼科學) 醫學博士 菅沼 定男
 (皮膚泌尿科學) 醫學博士 笹川 正男
 (耳鼻咽喉科學) 醫學博士 小柴 木修三
 (精神病學) 醫學博士 下田 光造
 (理學的診療科學) 醫學博士 藤浪 剛一
 (商科學) ドクター・オブ・サイ
セリー・アენტル 岡田 滿

助教授
 (解剖學) 醫學博士 江崎 四郎
 (生理學) 醫學博士 久保 盛徳
 (藥物學) 醫學博士 宮崎 三郎
 (醫化學) 醫學博士 末吉 雄治
 (內科學) 醫學博士 隈川 八郎
 (同) 醫學博士 草野 宏次郎
 (同) 醫學博士 平井 文雄
 (同) 醫學博士 正木 俊二
 (同) 醫學博士 大森 憲太
 (外科學) 醫學博士 木村 博
 (整形接骨科學) 醫學博士 桂 秀三
 (小兒科學) 醫學博士 鎮目 專之助
 (産婦人科學) 醫學博士 堤 寛一
 (皮膚泌尿科學) 醫學博士 北川 正惇
 (精神病學) 醫學博士 植松 七九郎

講師

(解剖學) 醫學博士 大串 菊太郎
 (同) ドクトル・
メヂチーネ ハルトウイッヒ・
クレーンベック
 (生理學) 理學士 中澤 恒三良
 (藥物學) 理學士 有馬 純三
 (病理學) 醫學博士 黒川 清之
 (同) 醫學博士 深町 朗安
 (細菌學) 醫學博士 高野 六郎
 (衛生學) 醫學博士 高野 六郎
 (細菌學) 醫學博士 橋原 勇
 (同) 小口 敏英
 (同) 伊澤 知實
 (寄生蟲學) 醫學博士 宮島 幹之助
 (熱帶病學) 醫學博士 草間 良男
 (同) 醫學博士 淺羽 義夫
 (法醫學) 理學士

(法醫學) 醫學博士 太田 賢一郎
 (醫史) 文學博士 富士川 游
 (醫事法制) 法學士 山崎 亮
 (內科學) 醫學博士 大谷 彬
 (外科學) 醫學博士 犬養 六郎
 (同) 醫學博士 西田 次磨
 (同) 醫學博士 佐藤 太平
 (小兒科學) 醫學博士 秋場 隆一
 (同) 醫學博士 岩井 眞金
 (同) 醫學博士 田村 均
 (産婦人科學) 醫學博士 中山 安
 (同) 醫學博士 岡本 寛雄
 (眼科學) 醫學博士 高木 六郎
 (同) 醫學博士 川上 理一郎
 (皮膚泌尿科學) 醫學博士 阿久津 三郎

(皮膚泌尿科學)	醫學博士	秋山 碇	調劑員	十五名
(耳鼻咽喉科學)		弘中英信	事務員	十九名
(同)		坂口武雄	卒業生	
(精神病學)	醫學博士	雨宮保衛	大正十二年(第一回)卒業	六十九名
(同)		金子準二	大正十三年(第二回)卒業	六十七名
(理學的診療科學)	理學士	大淵勇太郎	大正十四年(第三回)卒業	九十三名
(齒科學)		富取卯太治	在學生	
(藥局長)	藥學士	稻生 豐作	第四學年	七十三名
事務長事務取扱		倉井 忠	第三學年	九十名
外			第二學年	百 名
助 手			第一學年	百九名
				三百七名

九、附屬看護婦養成所

病院經營の要素中最も重要なるものは看護婦なるを以て本醫學部に於ては優

良なる看護婦の養成を以て急務となし去る大正七年中看護婦養成所を設く、二年半にて全科を卒業し、一年半の義務年限を加へ四年を以て終るものとす、毎年四月試験の上入所を許可し、既に第一回乃至第六回の卒業生を出せり、其の状況左の如し。

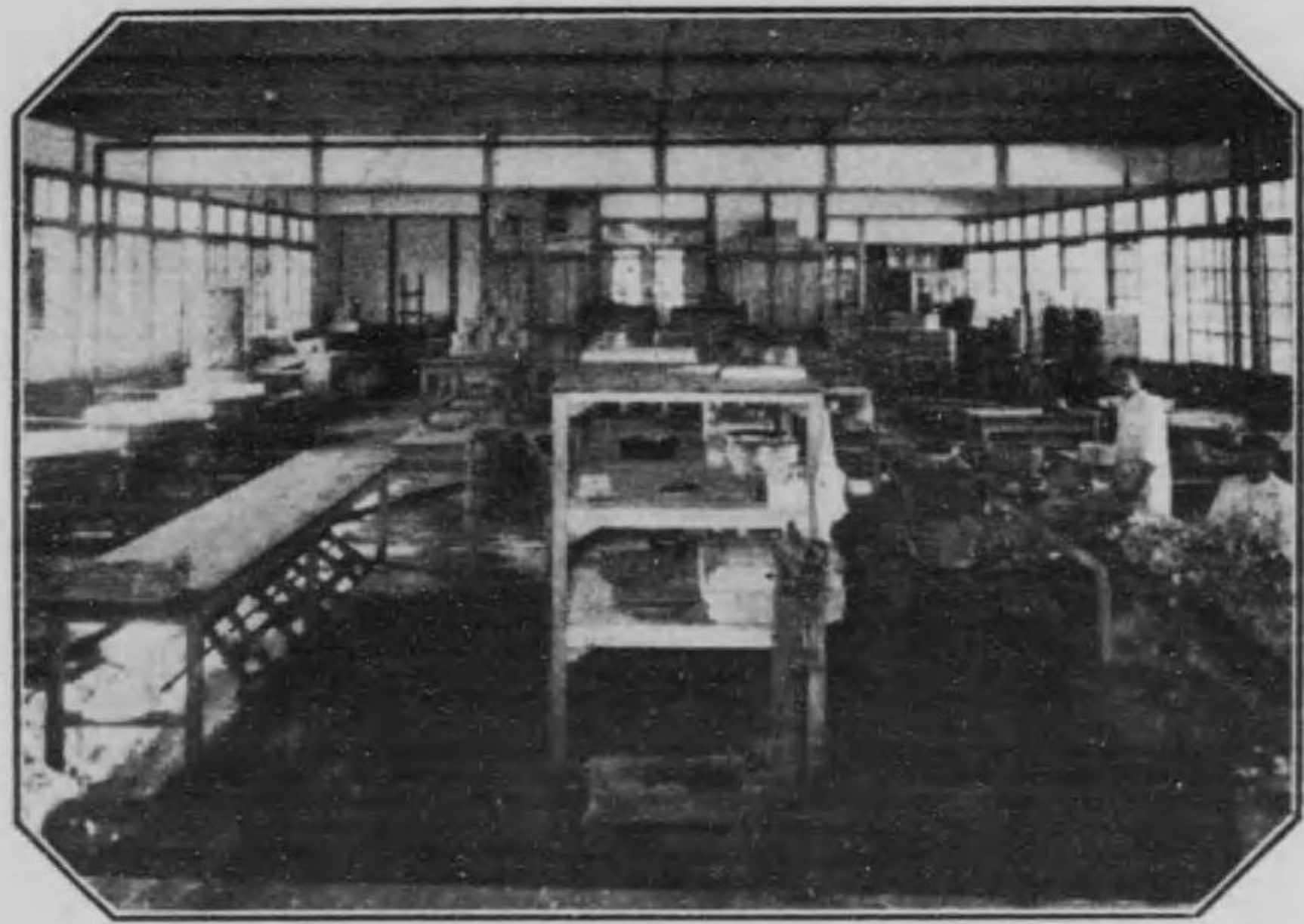
回数	入學年月	卒業年月	卒業員數	回数	入學年月	卒業年月	卒業員數
第一回	大正七年四月	大正十年九月	四八	第六回	大正十一年四月	大正十三年十月	五二
第二回	同 八年六月	同 年十一月	四八	第七回	同 十二年四月		
第三回	同 九年十月	同 十一年三月	三八	第八回	同 十二年十一月		
第四回	同 九年四月	同 年十月	四五	計			二八一
第五回	同 十年四月	同 十二年十月	五〇				

看護婦養成所教職員

所長 醫學博士 北島 多一
主任 醫學博士 平井 文雄
講師 川島 彌三郎

尾崎市太郎
原 政 敏
佐藤 太 平
木 村 博
中西 壽 太

正木 俊二
池田 三千畝



病 院 炊 事 場

三〇

醫學博士

雨宮 保衛

醫學博士

五十嵐 雄二

醫學博士

鎮目 專之助

ドクター・オブ・サイ
セリ・デ・タル

北川 正悳

醫學博士

高木 六郎

醫學博士

弘中 英信

醫學博士

岡田 滿

醫學博士

犬養 六郎

醫學博士

富岡 兵吉

醫學博士

飯田 鎗治郎

醫學博士

神戸 彌作

醫學博士

星野 靜枝

醫學博士

馬上 テル

醫學博士

鈴置 けい

一〇、 附屬産婆養成所

産婆養成所ハ大正十一年の創立にして修業期間は二ケ年、初め一年間は通學、後一年間は寄宿舎に收容す。

産婆養成所教職員

所 長 醫學博士 川 添 正 道
講 師 醫學博士 川 添 正 道

醫學博士 川 添 正 道

堤 寛 一
岡 本 寛 雄
中 山 盛 祐
五十嵐 雄 二
馬 上 テ ル

一一、 食養研究所

醫學部に於ては夙に日本食品の基礎的研究を爲し、日本人の榮養方針を確立し、又患者の榮養食餌に就て研究するの急務なるを認め、食養研究所の創設を企圖し、目下其工事進行中にあり、其の建物は病院正門北寄に電車通に面し、間口三十二間

奥行八間混泥土三階建總坪六百餘坪にして、之に要する資金は男爵益田孝男爵森村開作門野幾之進團琢磨根津嘉一郎桐島像一の諸氏發起人となり、募集せられたる篤志家の寄附金十萬六千八百圓を以て之に充つることとなれり。

一、二、 研究事業費及留學生費の補助及寄附

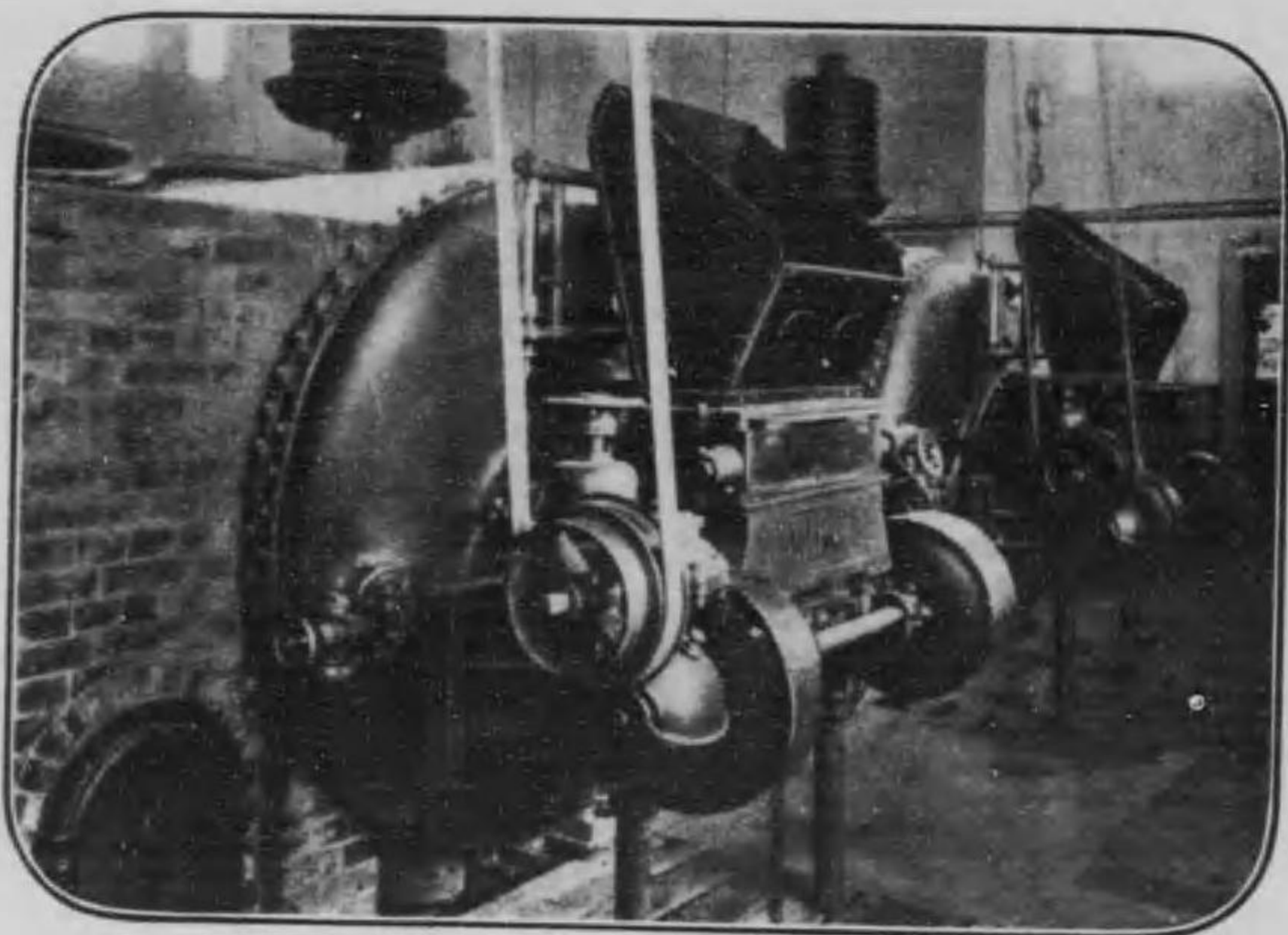
醫學部教職員の従事する研究事業に關し、現に補助金の交附を受けたるものは受けつゝあるもの大要左の如し。

加藤元一・久保盛徳の「神經系統ノ興奮及痲痺現象研究」に對し文部省より大正八年及九年度に於て年額金一千圓宛

岡島敬治津崎孝道の「脊椎動物五官器ノ比較解剖學的研究」に對し東照宮三百年祭記念會より大正九年及十年度に於て年額金一千圓宛、十一年度に於て金五百圓

加藤元一・鎮目專之助・川上漸の「鶏ノ脚氣様疾患ニ於ケル神經筋肉ノ生理學的並ニ病理解剖學的研究」に對し臨時脚氣病調査會より大正八年八月金五百五十圓

加藤元一・鎮目專之助・牧亮吉の「鳥類ノ脚氣様疾患ニ於ケル神經痲痺ノ本態ニ就テ」に對し同調査會より大正九年五月金二百五十圓



病院汽機室

大森憲太の「脚氣ノ血行障礙ト内分泌トノ關係」に對し文部省より大正十年度金八百圓、脚氣ノ原因ニ關スル研究」に對し同十一年及十二年度に於て年額金八百圓宛
菅沼定男・高木六郎の「フリュクテリン(俗稱目星)ノ原因竝ニ再發豫防ニ關スル研究」に對し文部省より大正十二年及十三年度に於て年額金五百圓宛
望月周三郎の「日本人靜脈系統(特ニ頸靜脈及心臟靜脈)ノ人類學的研究」に對し大正十三年度に於て年額金八百圓
末吉雄治の「燐脂質ノ研究」に對し東照宮三

百年祭記念會より大正十二年、十三年及十四年度に於て年額金八百圓宛
湯川蜻洋・小林數之介・兒玉得三の「消化腺・唾腺・胃腺・腸腺・脾腺等」ノ機能ト之ガ主宰
神經トノ關係に對し東照宮三百年祭記念會より大正十三年及十四年度に於て
年額金三百五十圓宛

末吉雄治の「磷脂質」ノ研究に對し緒明圭造氏より金一千圓
隈川八郎の「酸酵素研究」に對し三共株式會社より大正十三年乃至十七年に於て
年額金二千五百圓宛

尙醫學部事業中

病理細菌研究費として久原房之助氏より金六萬五千圓

傳染病研究費として藤瀬政治郎氏より金五千圓

バセドー氏研究費として伯爵林雅之助氏より金五百圓

レントゲン設備費として朝吹常吉氏より金一萬圓

分析化學研究費として鹽野義三郎氏より金一千圓

小兒科治療費として磯野長藏氏より金一千圓

傳染病研究費として藤瀬政治郎氏より金二千五百圓

モルヒネ研究費として有馬彦吉氏より金三萬圓

設備費(故御母堂追善)として福澤一太郎氏より金二千圓

其他圖書費として米山梅吉氏より三千圓、山本彗太郎氏より五千圓、村井吉兵衛
氏同薰子氏より五千圓、島村淺夫氏より一千圓、大谷周庵氏より五百圓、血脇守之
助氏より一千圓

の寄附ありたる外藤原銀次郎氏及鈴木梅四郎氏より外國留學生費、楨哲氏より海
外視察費の寄附あり、科學研究上及日新醫學研鑽上多大の便益を得たり。

研究業績を發表する機關として「慶應醫學會」あり、毎月例會を開き又十一月總會
を開く、又別に一社を設け「慶應醫學」と題する月刊雜誌を發行せり、主として原著を
登載す。

其他職員學生等より成る團體として三四會あり、文藝運動等を獎勵し親睦を
計れり。

慶應義塾大學醫學部一覽終

慶應義塾大學醫學部附屬病院患者科別表

大正十三年

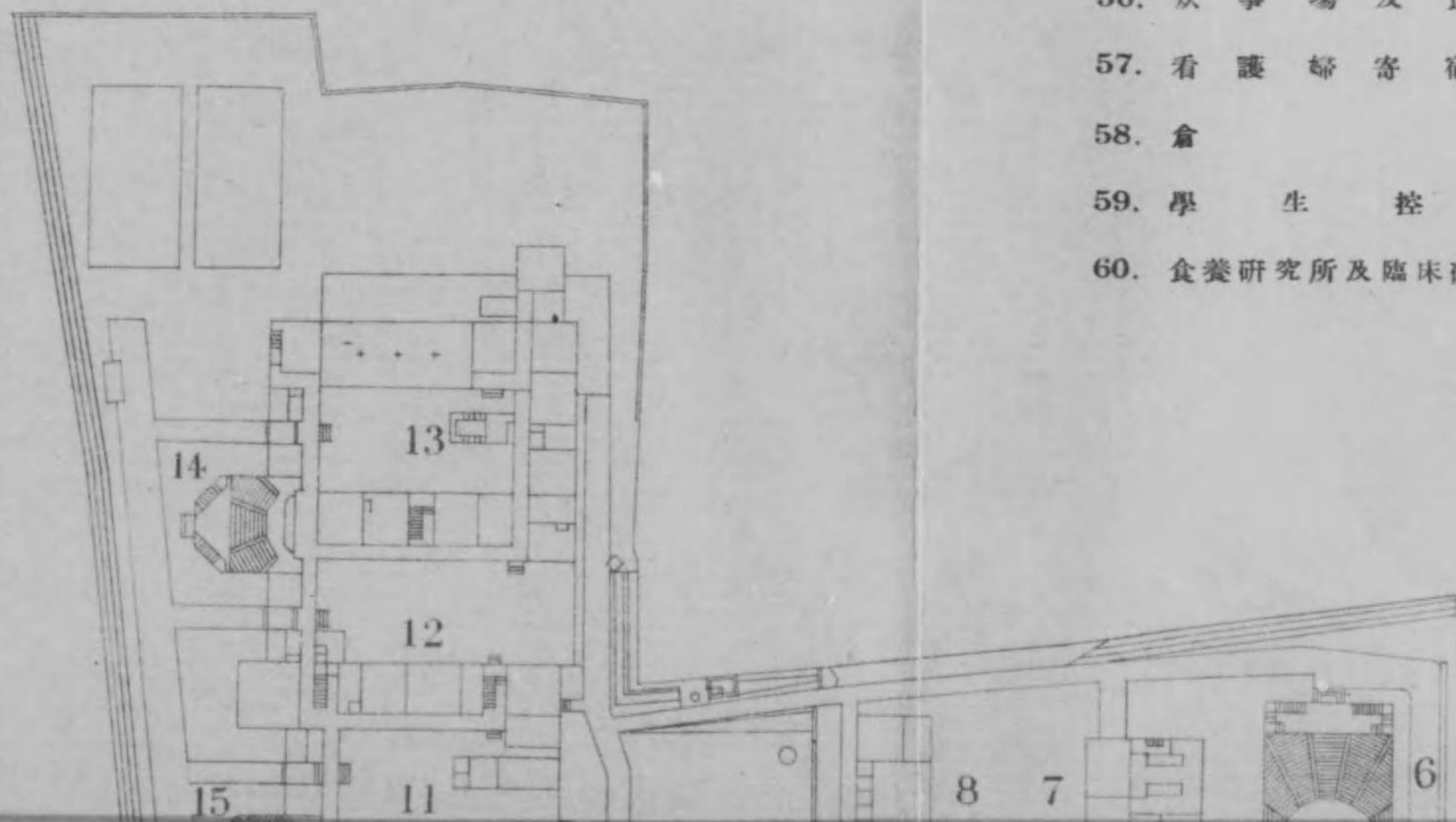
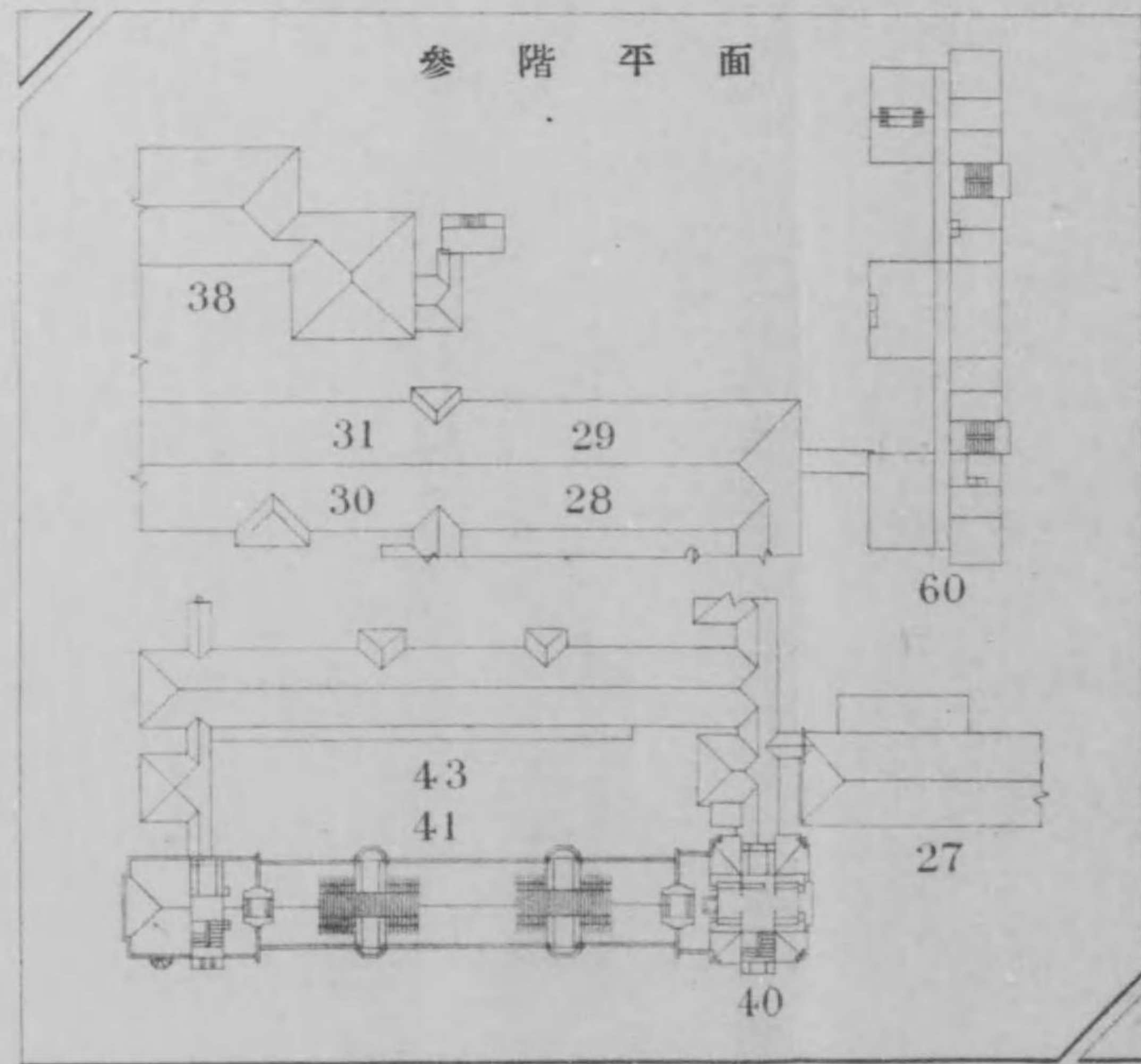
科別	外來患者									入院患者					
	新來			再來			計			人員			延人員		
	自費	給費	計	自費	給費	計	自費	給費	計	自費	給費	計	自費	給費	計
內科	14,870	2,044	16,914	36,860	4,660	41,510	51,720	6,704	58,424	941	201	1,142	31,309	10,054	41,363
外科	5,877	1,038	6,915	23,493	3,254	26,747	29,370	4,292	33,662	1,361	43	1,404	23,651	1,823	25,474
整形外科	2,006	197	2,203	11,399	1,257	12,656	13,405	1,454	14,859	365	17	382	7,698	920	8,618
小兒科	4,098	621	4,719	6,395	1,109	7,504	10,493	1,730	12,223	917	37	954	16,735	1,217	17,952
產婦人科	6,961	646	7,607	40,633	6,511	47,144	47,594	7,157	54,751	891	178	1,069	19,996	4,078	24,074
眼科	4,017	848	4,865	23,548	4,823	28,371	27,565	5,671	33,236	183	38	221	6,752	1,564	8,316
皮膚泌尿科	5,451	544	5,995	23,337	2,377	25,714	28,788	2,921	31,709	367	11	378	10,530	385	10,915
耳鼻咽喉科	6,804	912	7,716	34,628	4,834	39,462	41,432	5,746	47,178	781	15	796	11,369	340	11,709
神經科	1,581	4	1,585	7,123	94	7,217	8,704	98	8,802						
理學科	4,703	474	5,177	14,360	1,600	15,960	19,063	2,074	21,137						
齒科	1,862	29	1,891	24,906	8	24,914	26,768	37	26,805						
計	58,230	7,357	65,587	246,672	30,527	277,199	304,902	37,884	342,786	5,806	540	6,346	128,040	20,381	148,421

慶應義塾大學醫學部一覽終

慶應義塾大學醫學部並附屬病院平面圖

東京市四谷區西信濃町

參階平面

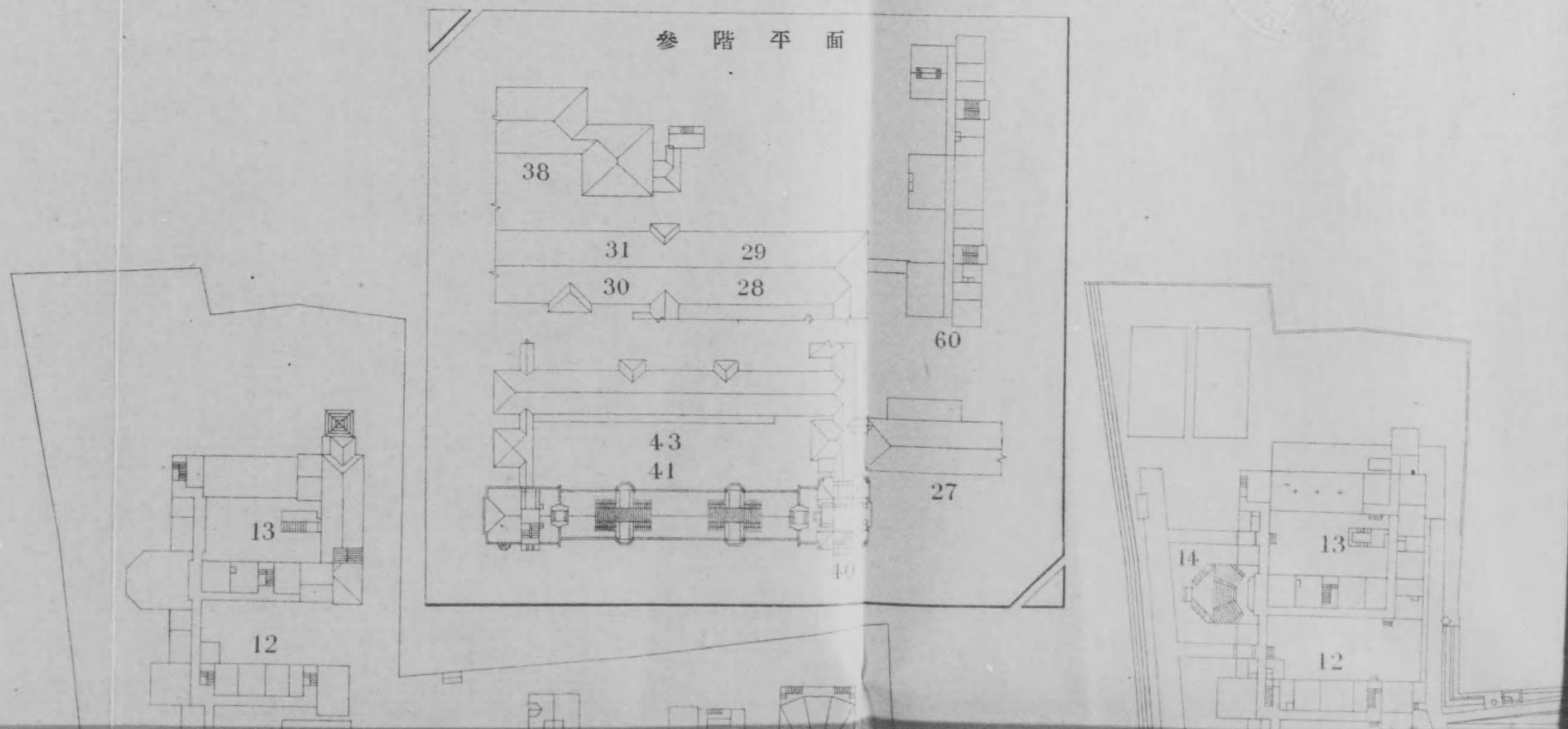


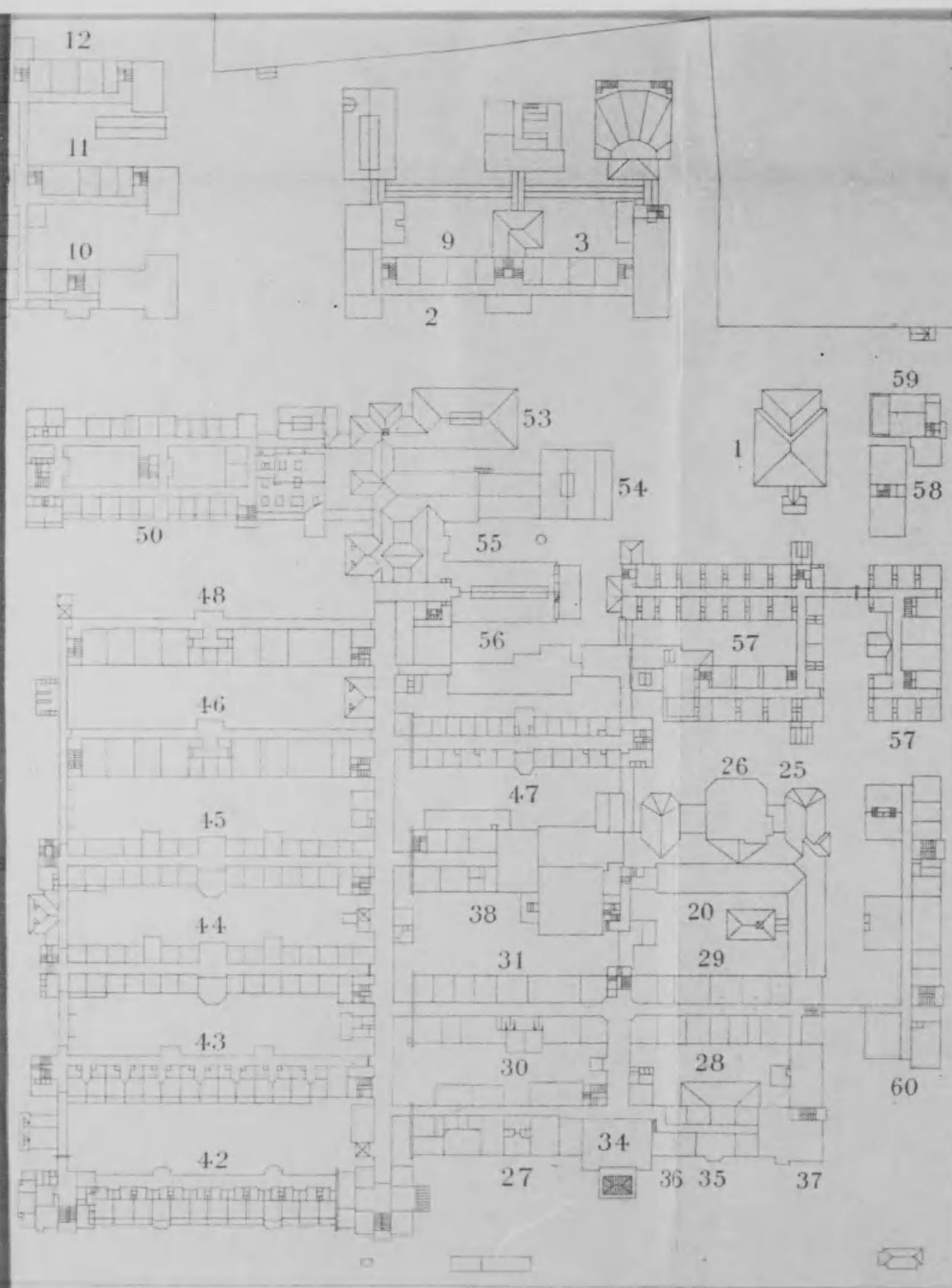
- 51. 傳染病棟附屬動物室
- 52. 傳染病屍室
- 53. 洗濯所
- 54. 汽罐室
- 55. 變電室
- 56. 炊事場及食堂
- 57. 看護婦寄宿舍
- 58. 倉庫
- 59. 學生控所
- 60. 食養研究所及臨床研究室

慶應義塾大學醫學部 附屬病院 平面圖

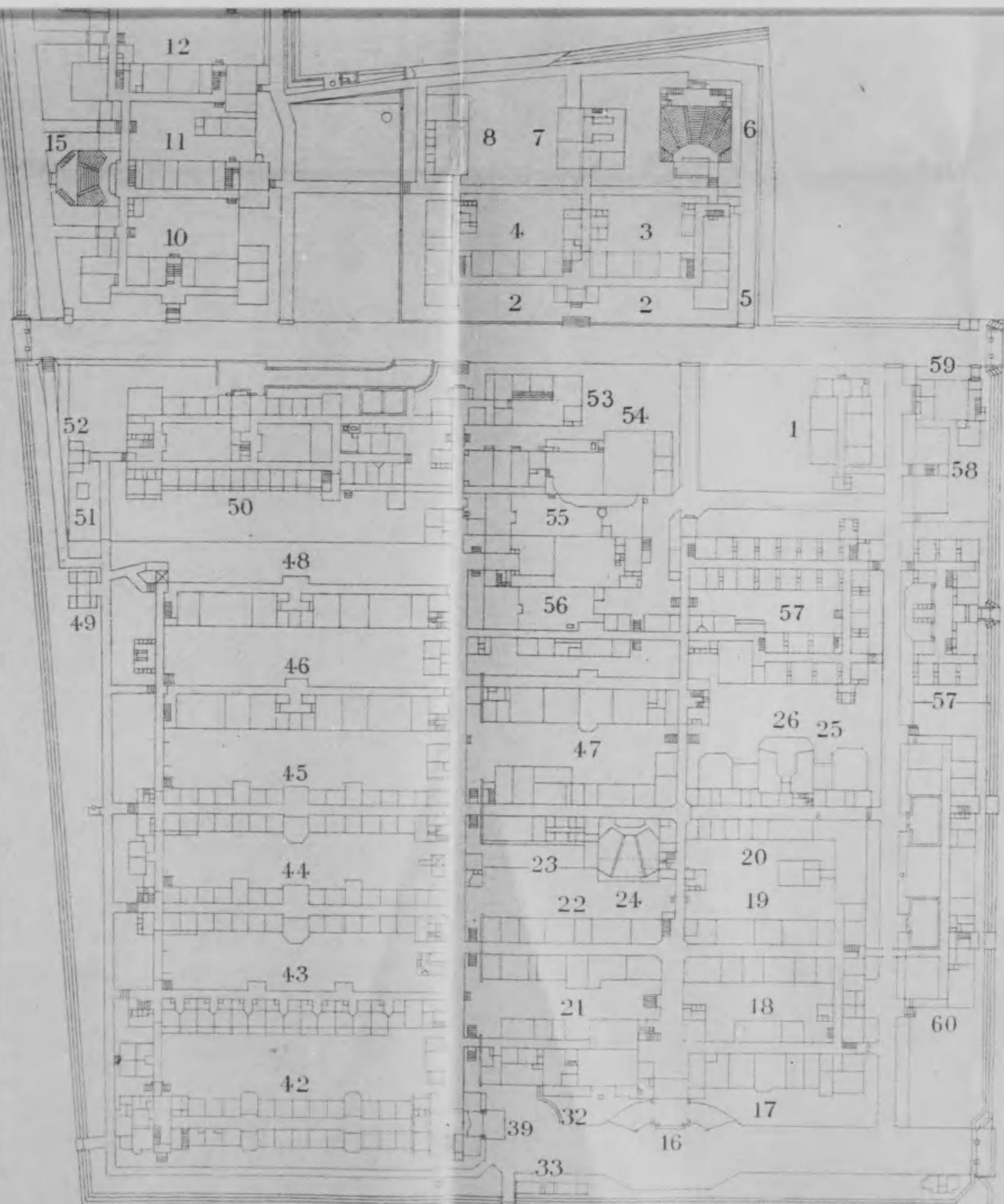
東京市四谷區西信濃町

1. 中央事務所
2. 病理學教室
3. 細菌學教室
4. 法醫學教室
5. 衛生學教室
6. 講堂
7. 剖檢室
8. 動物室
9. 寄生蟲學教室
10. 醫化學教室
11. 藥物學教室
12. 生理學教室
13. 解剖學教室
14. 講堂
15. 講堂
16. 診察部 女關
17. 內科診察室
18. 小兒科診察室
19. 婦人科診察室
20. 產科診察室及產室

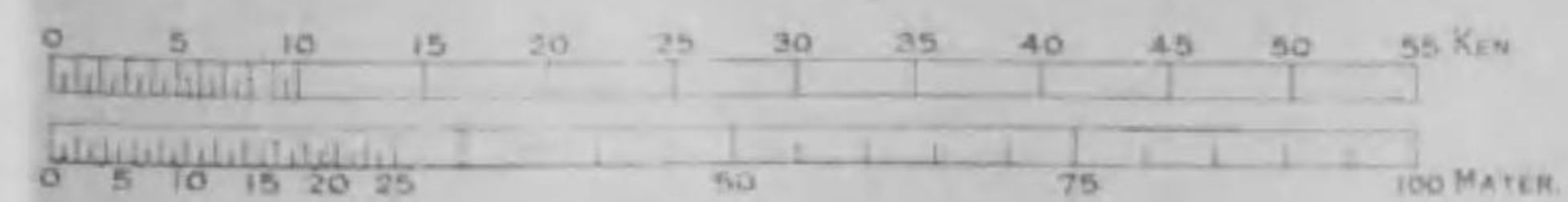




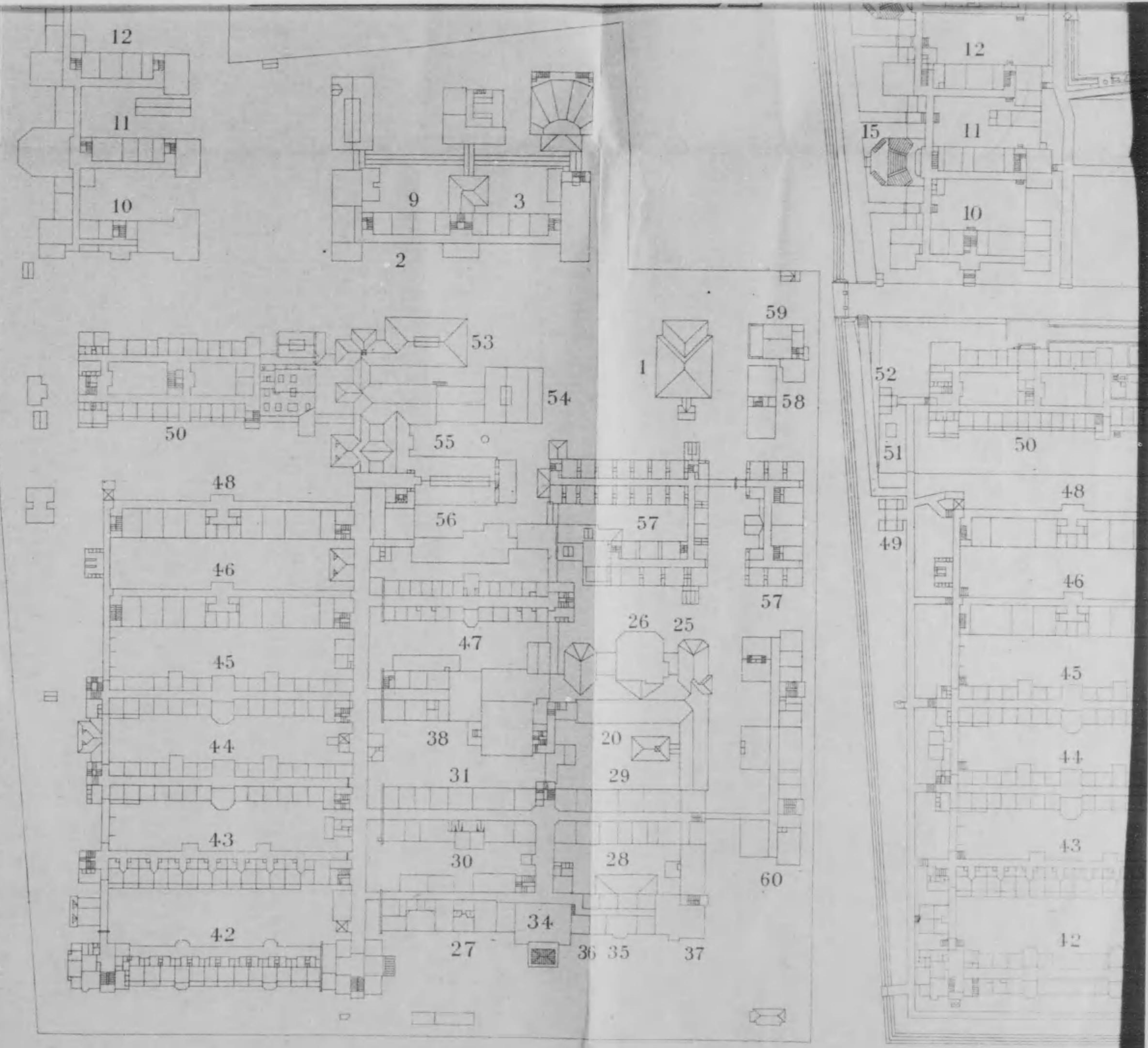
貳階平面



壹階平面



- 18. 小兒科診察室
- 19. 婦人科診察室
- 20. 產科診察室及產室
- 21. 外科診察室
- 22. 整形接骨科診察室
- 23. 理學的療法科診察室
- 24. 講堂
- 25. 手術室
- 26. 臨床講堂
- 27. 耳鼻咽喉科診察室
- 28. 神經科診察室
- 29. 皮膚科泌尿器科診察室
- 30. 眼科診察室
- 31. 齒科診察室
- 32. 藥局
- 33. 藥庫
- 34. 講堂
- 35. 來賓室
- 36. 院長室
- 37. 圖書室
- 38. 食堂及宿直室
- 39. 病棟玄関
- 40. 喫茶室
- 41. 屋上庭園
- 42. い號病棟
- 43. ろ號病棟
- 44. は號病棟
- 45. に號病棟
- 46. ほ號病棟
- 47. と號病棟
- 48. ち號病棟
- 49. 屍室
- 50. 傳染病棟



貳階平面

壹階平面

大正十四年十月十日印刷
大正十四年十月十三日發行

非賣品

編纂兼 慶應義塾大學醫學部
發行者

右代表者 倉井忠
東京市四谷區西信濃町二十二番地

印刷者 神谷次郎
東京市日本橋區兜町二番地

印刷所 東京印刷株式會社
東京市日本橋區兜町二番地

287
20

287
20

終

